

法政大學講義録

田中, 遜 / 谷野, 格 / 中村, 進午 / 塚田, 達二郎 / 清水,
澄 / 山崎, 覺次郎 / 鈴木, 英太郎 / 秋山, 雅之介

(出版者 / Publisher)

法政大學

(巻 / Volume)

1-19

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

49

(発行年 / Year)

1904-04-11



(明治三十六年十月十二日 第三種郵便物認可)
每月十期 一日三五日八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行

三十七年度

明治三十七年四月十一日發行

第一學年ノ十九

法政大學講義錄

第五拾八號



法政大學發行

090
1904
1-1-19

第一學年第十九號目次

法學通論	(自八九)	法學博士	中村進午
憲法	(自一三〇)	法學士	清水澄
民法總則	自第四章(自一五七)至第六章(自一六二)	法學士	鈴木英太郎
民法物權	自第一章(自八二)至第六章(自九二)	法學士	塚田達二郎
刑法總論	(自二二八)	法學士	谷野格
國際公法(平時)	(自三三)	法學博士	中村進午
國際公法(戰時)	(自二五二)	法學士	秋山雅之介
國際公法(戰時)	(自二五二)	法學士	山崎覺次郎
經濟學	(自六八)	法學士	田中遜
馬法	(自一〇五)	法學士	田中遜

○他人ノ所有物ノ登記○地上權者ノ地代不拂ト不當利得○地上權者ノ質貸權○舊法ノ下ニ於ケル保證債務

(訂正) 法學通論八九頁細章ヲ訂正シ本號ニテ改刷セリ

國民カ之ヲ守ルコトヲ欲スルト否トヲ問ハス法律ノ執行ヲ爲スヘキコトヲ行政官ニ命令シタルモノナレハナリ
此他一國ノ法律又ハ裁判ヲ他國ノ行政官カ執行スヘキヤ否ヤハ國際法ノ問題ニ屬スルヲ以テ茲ニ説スカ

第十二章 法律學ノ分類

法律學ヲ分類スルニ土地ヲ基トスルコトヲ得ヘク又時ヲ基トスルコトヲ得ヘク又法律現象ノ範圍ヲ基トスルコトヲ得ヘク又研究ノ主義方法ヲ基トスルコトヲ得ヘシ
第一 土地ヲ基トシタル分類
此分類法ニ依レハ法律ヲ一般法學、局地法學ノ二種ト爲スコトヲ得一般法學トハ世界萬國ニ通スル法律ノ學問ヲ謂ヒ局地法學トハ一國又ハ一地方ニ限ル法律ノ學問ヲ謂フ此區別ハ英國ノ學者ベンザム「オー」スタン等ノ取リタル所ニシテ各國ノ法律ニ共存スル通素ヲ見出シテ法律學ヲ研究スルニ極メテ必要ナル

モノナリ

第二 時ヲ基トシタル分類

此分類ニ依レハ法律ヲ現行法學、非現行法學ノ二種ト爲スコトヲ得、「ペンザム」ノ所謂古代法學、現在法學ノ區別是ナリ。此分類ハ依リテ以テ將來ニ於ケル立法ヲ爲スニ極メテ重要ナルモノナリ。左レハ此分類ニ依リテ當ニ現在及ヒ過去ノ法律ヲ論究スルニ止マルノミナリト考フルハ不當ナリ。

第三 法律現象ノ範圍ヲ基トシタル分類

此分類ニ依レハ法律學ヲ普通法學、特別法學ノ二種ト爲スコトヲ得。普通法學トハ法律現象ノ總テヲ基トシテ研究スルモノナリ。例ヘハ法學通論、法律哲學ノ如キ即チ是ナリ之ニ反シテ特別法學トハ特別ノ法律現象ニ付テノミ研究スルモノヲ謂フ例ヘハ刑法上ノ權利カ如何ナル性質ヲ有スルモノナルカ行政法上ノ義務カ如何ナル性質ヲ有スルモノナルカ民法ノ賣買カ如何ナル性質ヲ有スルモノナルカヲ研究スルカ如シ。

第四 法律研究ノ主義ニ依ル分類

(甲) 自然法學

自然法學說ヲ採ル者ハ宇宙ノ間ニ先天的ニ法律上ノ原理原則ナルモノ存在シ立法者カ法律ヲ制定スルト云フハ自然法ノ命スル所ニ從ヒテ之ヲ制定スルニ限ルト云フナリ。隨テ學者ハ自然ニ存在スル原理原則ヲ研究スヘシト云フニ在リ尤モ自然法學ヲ説ク者ト雖モ必スシモ同一ニ非ス之ヲ分テハ大體ニ於テ左ノ三種ト爲スコトヲ得ヘシ。

(イ) 純粹自然法學說 純粹自然法學說中ニモ種種ノ細派アリ例ヘハ神學派ノ如キハ其一ニ屬ス。此學派ノ唱フル所ハ立法者ハ神ノ意思ヲ承ケテ法律ヲ制定スルモノニシテ神ノ意思以外ニ法律ナシト云フナリ。神學派ニ反對スル純粹自然法學說ハ法律カ神ノ命令ニ由ルモノナリト云フコトヲ認メスシテ唯漢然自然法ナルモノアリト云フナリ。要スルニ純粹自然法學說ハ人間ノ意思身體等以外ニ自然ニ法律カ存在スルモノナリト云フナリ。

(ロ) 理性學說 此學說ニ依レハ人間ニ理性ナルモノ存在シ是非曲直ヲ分ツカ故ニ理性ノ命スル所ニ從ヒテ行フヘキハ之ヲ行ヒ行フヘカラサルモノハ之ヲ

行ハサルヘシト云フナリ

(ハ) 人性學說 此說ニ依レハ人間ノ性質ハ先天的ニ法律ヲ左右シ得ヘキモノト云フナリ故ニ此說ノ理性說ト異ナル所ハ人性カ總テ法律ヲ左右シ得ヘキモノト云フノ點ニ在リ

(乙) 註釋法學

註釋法學トハ或法律ノ文字意義ヲ解釋シテ之ニ依リテ其間ニ法律ノ原理原則ヲ發見セントスルモノナリ古代ヨリ現時ニ至ルマテ苟モ法律ノアラン限リ註釋法學ハ常ニ存在スルモノナレトモ單ニ註釋ノミヲ力メテ他ノ方面ヨリ解釋スルコトヲ怠ルハ不當ナリ日本ニ於テモ徳川時代ニ於テ解釋法學ヲ專トシタルコトアリ百箇條ノ解釋ニ汲汲タリシトキノ如キ即チ是ナリ歐羅巴ニ於テ註釋法學ノ最モ盛ナリシハ第十二世紀ノ初ヨリ第十三世紀ノ末ニ至ルマテニテアリキ註釋法學ノ缺點ヲ學クレハ徒ニ文字ノ末ノミニ拘泥シテ法理ノ原則ヲ研究スルヲ怠ルコト及ヒ法律ノ實質的價值如何ヲ批評スルコトヲ忽ニスルコトニ在リ其他法律ヲ歴史のニ研究スルヲ怠ルカ如キモ亦註釋法學ノ一ノ缺點

ナリ要スルニ註釋法學ノ盛ナルハ法律ノ進歩ヲ妨タルモノナリ例ヘハ佛蘭西ニ於テ那破翁一世カ那破翁法典ヲ作りタル結果トシテ學者モ人民モ一般ニ法理ノ研究ヲ怠リ唯法文ノ解釋ノミヲ力メタルカ爲メニ却テ法律學ノ進歩ヲ妨ケタルノ形跡アリ

(丙) 分析法學

分析法學トハ法律ノ要素ヲ取リテ之ヲ分析シ其原理ヲ見出シテ法律ヲ研究スルモノナリ例ヘハ賣買トハ如何ナルモノナルカラ研究センカ爲メニ賣買ヲ分析シテ當事者タル賣主ト買主ト目的物トアリテ一方ノ當事者タル賣主カ他方ノ當事者タル買主ヨリ金錢ノ支拂ヲ受ケテ目的物ノ所有權ヲ移スノ意思アルコトヲ要スルカ如シ

(丁) 歴史法學

歴史法學トハ法律上ノ現象ヲ沿革的ニ調査シテ之ニ依リテ法律ノ原理原則ヲ究メントスルモノナリ蓋シ現在ノ現象ノミヲ觀テ或事ヲ判定スルトキハ偏頗ニ流レ易キカ故ニ之ヲ既往ノ事實ニ徴シテ研究セハ始メテ完全ナル原理原則

ヲ見出し得ヘシト云フナリ此說ヲ唱ヘタル者ハ英吉利ノ「ト」佛蘭西ノ「ト」
「ト」獨逸ノ「ト」ライプニツ等ナリ獨逸ニ於テ法典編纂ヲ爲スヘキヤ否ヤニ關シ
嘗テ爭ノ起リタルハ即チ歴史法學說ト非歴史法學說トノ衝突ニテアリシナリ
(戊) 比較法學

比較法學トハ世界各國ニ存在スル法律或ハ一國內ニ在ル各地方ノ法律ヲ對照
シ依リテ以テ法律ノ原理原則ヲ研究セントスルモノヲ謂フ例ヘハ憲法ヲ研究
セントスル者カ支那及ヒ露西亞ノ如キ專制君主國ノ憲法ト日本及ヒ英吉利ニ
於ケルカ如キ立憲君主國ノ憲法ト佛蘭西及ヒ亞米利加合衆國ノ如キ共和國ノ
憲法トヲ比較シテ其各者ニ通スル原理原則ヲ見出サントスルカ如シ比較法學
ノ研究ヲ唱ヘタル者ハ伊太利ノ「ト」ニシテ之ヲ實際ニ行ヒタル者ハ佛蘭西
ノ「ト」モンテスキュー「ト」ナリ古ニ於テ法律ノ比較的研究ノ行ハレザリシ原因ハ交通
ノ不便ナリシカ爲メナリ然ルニ汽車汽船等ノ發明アリシヨリ内外ノ往來頻繁
ト爲リ通商貿易隆盛ナルニ至リ其他ノ學問ト等シク法律學ノ比較的研究モ亦
漸ク盛ナルニ至リ比較法學會ノ如キモノヌラ設ケラルルニ至リタリ

與令第一條參照

第四節 臣民ノ特別階級

第一款 皇族

第一項 皇族ノ範圍

皇族トハ皇統ノ男子及ヒ其正當ノ配偶者並ニ皇統ノ女子ヲ指スモノニシテ仍
ホ之ヲ詳シク列舉スルトキハ我皇族ニ列セラルル者ハ左ノ如シ

- 皇太后
- 皇后
- 皇太子
- 皇太子ノ妃
- 皇太孫
- 皇太孫ノ妃

憲法 統治權ノ客體 臣民 臣民ノ特別階級

親王

親王ノ妃

内親王

王

王妃

王女

是ナリ(皇室典範第三〇條)而シテ皇室典範第三十一條ニハ皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマテハ男ヲ親王女ヲ内親王トシ五世以下ハ男ヲ女王トストアルニ由リ皇統ニ屬スルモノハ百世ノ後ニ至ルマテモ總テ皇族ノ中ニ入ルヘキモノナリ我歴史上皇族ニ姓ヲ賜ヒテ之ヲ臣下ニ下シタルノ例アルニ拘ハラヌ我皇室典範ハ之ヲ禁止シタルモノト謂フヘキナリ又皇室典範第四十四條ニハ皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラス但シ特旨ニ依リ仍内親王女王ノ稱ヲ有セシムルコトアルヘシトアルニ由リ皇族女子カ皇族以外ノ者ニ婚嫁シタルトキハ皇族ノ範圍外ニ出ツルモノナリ又皇族ハ皇室典範第四十二條ニ依リ

養子ヲ爲スコトヲ得サルニ由リ皇族ニ列セラルル者ハ配偶者ノ外血統上ノ皇胤タルコトヲ要スルモノナリ

第二項 皇族ノ特權

凡テ立憲國ニ於テハ四民ノ平等ナルヲ原則ト爲シ特權アル種族ノ存在スルコトヲ認メサルモノナリト雖モ皇族ハ君主ト特別ノ血統ノ關係ヲ有スルモノナルニ由リ何レノ國ニ於テモ君主ノ一族タル皇族若クハ王族ニハ或特權ヲ付與スルヲ常ト爲セリ而シテ我國ニ於テモ亦然リ故ニ之ヨリ皇族ノ特權ヲ列舉スルトキハ

第一 攝政ト爲ルノ資格ヲ有スルコト

後ニ述フルカ如ク攝政ナルモノハ君主ニ代リテ政ヲ爲スノ重大ナル職務ヲ有スルモノニテ而モ攝政タル者ハ我現行ノ制度ニ於テ必ス皇族ヨリ出ラサルヘカラストセラレタリ

第二 貴族院議員ト爲ルノ資格ヲ有スルコト

憲法 統治權ノ客體 臣民 臣民ノ特別階級

貴族院議員ト爲ルノ資格ヲ有スル者ハ必スシモ皇族ニ限ラスト雖モ皇族ハ成年齡ニ達シタルトキハ選舉ヲ埃タヌ又勅選ヲ待タヌシテ當然貴族院議員タルノ地位ヲ有スルモノナリ而シテ此地位ハ立法事業ニ參與スル議會ヲ組織スル分子ノ一ニシテ國法上重要ナルモノナルコト多言ヲ要セサルナリ

第三 皇族會議ノ議員ト爲ルコト

皇族會議ナルモノハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ組織セラレ内大臣、樞密院議長、宮内大臣、司法大臣、大審院長ヲ之ニ參列セシムルモノナリ而シテ皇族會議ノ權限ハ左ノ一ヨリ四ニ至ルマテノ事項ニ付キ諮詢ヲ受ケ若クハ君主ヨリ隨時諮詢アラタルトキ之ニ對スル答申ヲ爲シ若クハ五、六ノ事項ニ付キ議決ヲ爲スコトニ在ルナリ

一 皇室典範ノ改正ニ關シ諮詢ヲ受ケタルトキ

二 皇嗣ヲ變更スルコトニ付キ諮詢ヲ受ケタルトキ

三 皇族ノ懲戒、禁治産ノ處分ニ付キ諮詢ヲ受ケタルトキ

四 大傅ノ任命又ハ大傅ノ退職ニ付キ諮詢ヲ受ケタルトキ

五 天皇久シキニ亘ル故障ニ因リ政ヲ親ラスルコト能ハサル場合ニ攝政ヲ

置クヘキヤ否ヤヲ議決スルコト

六 攝政タルヘキ者ノ順序變更ヲ議決スルコト

右列舉セル如ク皇族會議ノ攝政ハ實ニ皇室内部ノ一私事ノミナラス國務ニ關スルコトヲ議スルモノナルニ由リ皇族會ノ議員ト爲ルコトモ一ノ國法上ノ特權ト稱スヘキナリ

第四 平時ニ於テ邸宅、車馬ヲ徵發セラレサルコト(徵發令第一五條、第一六條)

第五 租稅ニ關スル免除ノ特權ヲ有スルコト

皇族ハ明治七年太政官布告第百二十號地所名稱區別、明治十六年内務大藏兩省ノ達乙第三十號府縣制第百十條、市制第九十八條、町村制第九十八條等ニ依リ地租、地方稅、市町村稅ノ免除ノ特權ヲ有スルモノナリ

第六 司法上ノ特權ヲ有スルコト

皇族ハ民事、刑事ノ事件ニ關シ左ニ列舉スル如ク一般人民ト異ナリタル取扱ヲ受クルモノナリ

- 一 皇族相互ノ民事訴訟ハ勅旨ニ依リ宮内省ニテ裁判員ヲ命シ之ヲ裁判セシム且其裁判ハ勅裁ヲ經テ執行セラルヘキモノトス
- 二 人民ヨリ皇族ニ對スル民事訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ管轄スルモノトス
- 三 皇族ハ東京控訴院ニ自ラ出頭スルコトヲ要セス代人ヲ使用スルコトヲ得ルナリ
- 四 皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サレハ拘引セラレ若クハ裁判所ニ召喚セラルルコトナシ
- 五 皇族證人ト爲ル場合ニハ刑事ニ在リテハ豫審判事民事ニ在リテハ受命判事又ハ受託判事其所在ニ就キ訊問ヲ爲スヘキモノトス
- 六 皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮又ハ更ニ重キ刑ニ處スヘキ豫審及ヒ裁判ハ第一審及ヒ終審トシテ大審院ニ於テ之ヲ管轄ス裁判所構成法第三八條第五〇條皇室典範第五一條民事訴訟法第二一條刑事訴訟法第一三〇條第七條榮譽上ノ特權ヲ有スルコト

皇族ハ菊花ノ御紋章及ヒ一定ノ旗ヲ特ニ用フルコトヲ得ルノミナラス(明治四年六月布告明治二十二年宮内省達第十七號其他皇族ハ皇室典範第十七條及ヒ第十八條ニ依リ陛下若クハ殿下等ノ特別ノ尊稱ヲ用フルコトヲ得ルナリ)

第八 職司ヲ設置スルコト

皇族ノ爲メニハ特ニ陸海軍ノ武官ヲ之ニ附セラルルノミナラス其他勅任、奏任、判任ナル官吏ヲ其家ノ職員トシテ置クコトヲ得(東宮職官制東宮武官官制皇族職員職制皇族附陸軍武官官制皇族附海軍武官官制)

第九 經費上ノ特權ヲ有スルコト

皇族ノ歳費ハ年年皇室給費ヨリ一定ノ額ヲ以テ支辨セラルルモノナリ

第二款 華族

華族ハ之ヲ公、侯、伯、子、男ニ分ツモノニテ其特權ト認ムヘキモノハ左ノ如シ

(一) 貴族院議員タルコト 此特權ハ華族全體ニ屬スルモノニ非スシテ公侯爵ノ者ニ屬ス即チ伯子男爵ハ同爵間ノ選舉ニ依リテ議員ト爲ルコトヲ得ルモ公

侯爵ノ者ハ當然成年齡ニ達スルトキ貴族院議員ニ列スルコトヲ得
 (二) 刑法上ノ特權ヲ有スルコト 華族ニシテ禁錮以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者ヲ處分スルニハ先ツ當該檢事ヨリ司法大臣ニ上申シ司法大臣ハ之ヲ上奏セサルヘカラス唯現行犯罪者ニ限リテハ處分シテ後上奏スルコトヲ得明治十五年司法省達第十一號明治十六年司法省達丙第二號)
 終ニ注意ノ爲メ一言スヘキハ外國ノ華族ニシテ我國民ニ歸化スルモ我華族トシテノ特權ヲ享有セサルコト是ナリ

第四編 憲法上ノ機關

第一章 總論

憲法上ノ機關トハ憲法ニ依リテ設ケラレ且其權限ヲ憲法ニ依リテ規定セラルル機關ニシテ憲法ヲ變更スルニ非サレハ其機關ノ權限ヲ變更シ若クハ其機關ヲ廢止スル能ハサル地位ニ立ツ機關ヲ稱スルナリ故ニ攝政帝國議會國務大臣、樞密顧問、裁判所會計檢査院等ヲ指シテ憲法上ノ機關ト稱スルナリ尤モ此等ノ

機關ノ中ニハ立憲國ニ缺クヘカラサル機關ト然ラサル機關ト存スルナリ議會、國務大臣、裁判所ノ如キハ其立憲國ニ缺クヘカラサル機關ニ屬スルモノニテ狹義ニ於テ憲法上ノ機關ト稱スルトキハ議會國務大臣裁判所ヲ指スモノナレトモ茲ニハ單ニ狹義ノ憲法上ノ機關ノミナラス憲法ニ規定セラレタル諸機關即チ樞密顧問、會計檢査院等ニ付テモ併セテ其概略ヲ說カント欲ス或ハ廣ク憲法上ノ機關ヲ區別シテ直接機關及ヒ間接機關ニ分ツ人アリ、エリ、キ、ク、氏ノ如キ其一人ニシテ此說ニ從フトキハ君主及ヒ議會ヲ直接機關ト爲シ國務大臣、裁判所以下ノ機關ヲ間接機關ト爲スモノナリ而シテ其區別ノ標準ハ間接機關ハ他ノ機關ニ依リテ其存在ヲ保ツモノナリト雖モ他ノ機關ノ行爲ニ依ラスシテ其存在ヲ保ツモノヲ直接機關ナリト爲スニ在リ此說ハ我國ニ於テ採用スルコトヲ得ス何トナレハ第一、君主ノ統治權ノ主體ナルコトハ既ニ述ヘタルカ如クニシテ統治權ノ主體ト機關トハ一身ニシテ之ヲ兼スルコトヲ得サルニ由リ君主ノ直接機關タリトノ說ハ我國ニ於テ容ルルコトヲ得サルナリ又議會ハ貴衆兩院ヨリ成立スルモノニシテ其衆議院ハ人民ノ選舉ニ係ル議員ヲ以テ組織スルモ

ノナリト雖モ貴族院ノ議員中ニハ君主ノ任命ニ係ル者少カラス又縱令兩院ノ議員カ人民ノ選舉ニ由レリトスルモ議會ノ成立ハ君主ノ行爲召集ヲ待タサルヘカラサルカ故ニ議會ハ君主ノ行爲ヲ待タズシテ其存在ヲ保ツモノナリト稱スルヲ得サルナリ故ニ今舉ケタル標準ヲ以テ直接機關間接機關ト區別スルハ當ヲ得タルモノニ非ス又強ヒテ此ノ如ク區別スルモ何等ノ利益ヲ見サルニ由リ我國ニテハ無用ノ分類ト謂フヘキナリ或ハ憲法上ノ機關中議會ハ君主ト等シク其存在ヲ固有ニ保ツモノニシテ憲法ニ依リテ始メテ設ケラルルモノニ非ス隨テ憲法ノ規定ヲ變更スルモ之ヲ廢止スルコトヲ得ルモノニ非ス唯憲法ハ之ヲ確認スルニ止マルモノナリト説ク人アリト雖モ議會ニシテ獨立ノ權力ヲ有セサル以上ハ機關トシテ其固有ノ存在ヲ保ツモノナリトスルノ理由ヲ解スルヲ得サルナリ固ヨリ議會ヲ以テ獨立ノ權力ノ主體ナリト爲シタル時代ナキニ非サリシモ即チ三權分立說ノ行ハレタル時ハ議會ヲ以テ一ノ立法權ノ主體ナリト認メタリト雖モ三權分立說ノ認メラレサル今日ニ於テハ議會ノミナラス裁判所其他ノ機關モ權力ノ主體タルモノニ非サルナリ故ニ機關ナルモノハ

原則トシテ人格ヲ有セス即チ權力ノ主體タルコト能ハスシテ唯權限ヲ有スルニ止マルノミ而シテ其權限ノ爭ナルモノハ特ニ權限裁判所ヲ設ケタル場合ノ外ハ各獨立ノ機關ノ間ニ於テハ君主ノ採決ヲ待ツノ外ナキナリ

第二章 攝政

第一節 攝政ノ地位

統治權ノ行使ハ一日モ廢スヘカラス然ルニ君主ノ地位ヲ充タス所ノ者ハ自然入ナルカ故ニ種種ノ故障ノ爲メニ君主其政ヲ行フコト能ハサルノ狀態ニ陥ルコト少カラサルナリ今其故障ノ生スル場合ヲ列舉スルトキハ

(一) 君主自己ノ意思ニ依リテ政ヲ行ハサルトキ 例ヘハ遠ク外國ニ旅行シタルトキノ如シ

(二) 君主政ヲ執ルノ能力ヲ有スルモ自己ノ意思ト關係ナキ事情ノ爲メ政ヲ行フコト能ハサルニ至リタルトキ 外國ニ俘虜ト爲リタル類ノ如シ

(三) 未成年ナルカ若クハ精神上身體上ノ重大ナル缺點ノ爲メ親ヲ政ヲ爲スノ

能力ヲ有セサルトキ

右ニ列舉シタル三ノ場合ノ中(一)ノ場合ニ於テハ君主政務ヲ執ルノ能力アリテ而モ自己ノ隨意ニ之ヲ行ハサル場合ナルニ依リ一時代理者ヲ設ケテ之ニ自己ノ行フヘキ政務ヲ委任スルコトヲ得ルナリ然ルニ(二)及ヒ(三)ノ場合ニ於テハ君主親ラ政ヲ爲ス能ハサルノ狀態ニ陥リタルトキナルヲ以テ皇位ノ繼承ヲ新ニ生セシムルカ若クハ法定ノ代理者ヲシテ其政務ヲ行ハシムルノ外ナキナリ而シテ我皇室典範ハ皇嗣ニ付テハ皇室典範第九條ヲ以テ繼承ノ順序ヲ變更シ得ルモノト定メタルモ君主ニ付テハ一旦即位シタル後如何ナル事情ニ因ルモ之ヲ變更セサルモノト爲セルニ依リ他ノ法定ノ代理者ヲ設クルノ途ヲ執ラサルヲ得ス此法定ノ代理者ノ地位ニ立ツ者ヲ攝政ト稱ス故ニ攝政ノ其職ニ就クコトハ皇位ノ繼承ニ非ス隨テ攝政君主ニ代リテ政ヲ執ルモ自ラ君主ト爲ルモノニ非サルナリ攝政ハ君主ニ非サルカ故ニ攝政ハ陛下等ノ敬稱ヲ享有セサルノミナラス「神聖ニシテ侵スヘカラス」ノ規定其他君主ノ一身ニ關スル特權ノ規定ノ如キハ攝政ニ適用セララルモノニ非サルナリ又刑法ニ於テ君主ニ對スル不

參照唯條件附法律行為ノ場合ニ於テハ普通ノ法律行為ト異ナリ條件成就ノ時マテ其目的タル效力ノ發生又ハ消滅ニ關スルモノナリト信ス但如何ナル場合ニ於テ條件カ法律行為ノ效力ノ發生ニ關スルモノナリヤ又ハ其消滅ニ關スルモノナリヤニ關シテハ後ニ條件ノ種類ヲ述フルニ當リ之ヲ説明スヘシ

三 條件ハ法律行為ノ目的タル效力ノ發生又ハ消滅ヲ主觀的不確定ノ事實ノ發生ニ繫ラシムルモノナリ

條件ナル語ハ學者ニ依リテ其意義ヲ異ニス予ハ條件ナル語ヲ以テ法律行為ノ附加ナリトノ意味ニ使用セルコトハ前述シタル所ナリ然ルニ學者中或ハ法律行為ノ目的タル效力ノ發生又ハ消滅ヲ繫ラシムル不確定ノ事實其自身ヲ以テ條件ト曰フ者アリ然レトモ是レ決シテ條件ノ性質ニ關シテ意見ノ異ナルニ非ス唯其用語ヲ異ニスルニ過キスト信ス此點ハ特ニ注意セララルヘシ

條件ノ場合ニ於ケル事實カ不確定ナルコトヲ要スルコトハ何人モ異議ナキ所ナリ然レトモ其不確定トハ所謂客觀的ノ不確定ナルコトヲ要スルモノナルカ

或ハ又主觀的不確定ナレハ足ルモノナルヤ此點ニ付テハ學說及ヒ立法例ニ於テ頗ル議論アリ獨逸學者ノ多數ハ條件ノ場合ニ於ケル事實ハ常ニ客觀的不確定ナラサルヘカラストセリ故ニ此說ニ依レハ例ヘハ日露戰爭ニ於テ若シ日本カ勝利ヲ得タルナラハ金一萬圓ヲ贈與スヘシトノ契約ヲ爲シタルトキハ日露孰レカ勝利ヲ得ルヤハ未來ノ事實ニ屬スルヲ以テ何人モ未ダ知ラサル所ナレハ之ヲ一ノ條件附法律行為ト謂フコトヲ得ヘシ之ニ反シテ當事者カ互ニ未ダ普佛戰爭ノ歴史ヲ知ラサルカ爲メニ普佛戰爭ニ於テ若シ普漏西カ勝テタルナラハ金千圓ヲ與ヘントノ契約ヲ爲シタルトキハ普佛戰爭ニ於テ普漏西カ勝テタルコトハ過去ノ事實ニシテ人ノ知レル所ナルヲ以テ縱令當事者カ之ヲ知ラサルモ其行為ヲ以テ條件附行為ト謂フコトヲ得サルニ至ル故ニ此種類ノ學者ハ過去及ヒ現在ノ事實ハ絕對ニ之ヲ條件ノ場合ニ用フルコトヲ得サルモノトセリ然ルニ又他ノ學者ハ條件ノ場合ニ於ケル事實ハ必スシモ客觀的ニ不確定ナルノ必要ナク主觀的不確定ナレハ足レリ即チ自然ニ於テハ既ニ確定セルモノナルモ當事者間ニ於テ不確定ノモノナレハ足レリトセリ故ニ此說ニ依レハ

將來ノ事實ハ固ヨリ過去若クハ現在ノ事實ナルモ苟モ當事者カ之ヲ知ラサル間ハ條件ノ場合ニ於ケル事實タルコトヲ妨ケス而シテ我民法ハ此二ノ學說中孰レヲ採用シタルヤハ明瞭ナラサルモ民法第三百三十一條ノ規定ヨリ推測スルトキハ後說ヲ採用シタルカ如シ故ニ予ハ我民法上條件ノ場合ニ於ケル事實ハ主觀的不確定ナレハ足ルモノナリト信ス

第二項 條件ノ種類

條件ハ種種ノ標準ニ依リテ之ヲ區別スルコトヲ得次ニ其重ナルモノヲ説明ス

一 停止條件解除條件

停止條件トハ條件ノ成就ニ因リテ法律行為ノ目的タル效力ヲ發生セシムル場合ヲ謂フ例ヘハ予カ衆議院議員ニ當選シタルナラハ汝ニ金千圓ヲ與ヘント云フカ如シ此場合ニ於テハ條件附法律行為ノ目的タル債權債務ノ關係ハ條件カ成就ノ時マテ其發生ヲ停止セラルルモノナリ

解除條件トハ例ヘハ甲カ乙ニ對シ家屋ヲ貸渡シ若シ甲カ議員ニ當選シタルナラハ其家屋ヲ返還スヘシトノ約束ヲ爲シタル場合ノ如シ然レトモ解除條件ノ性質ニ付テハ二ノ見解アリ或學者ハ曰ク解除條件トハ條件ノ成就ニ因リテ法律行為ノ目的タル效力ヲ消滅セシムル場合ヲ謂フモノナリト此說ニ依レハ解除條件附法律行為ハ一ノ法律行為ニシテ停止條件ノ場合ニ於テハ條件成就スル時マテ法律行為ノ目的タル效力ノ發生ヲ停止セルニ反シ解除條件ノ場合ニ於テハ法律行為ノ目的タル效力ハ其行為ヲ爲スト同時ニ發生スルモ條件カ成就スルトキハ之ニ因リテ其發生シタル效力カ消滅スルモノナリトセリ又他ノ學者ノ見解ニ依レハ解除條件附法律行為ハ一ハ之ト同時ニ成立シテ第一ノ法律行為ノ效力ヲ消滅セシムルモノトシ一ハ無條件ノ法律行為ニシテ他ノ一ハ之ト同時ニ成立シテ第一ノ法律行為ノ效力ヲ消滅セシムルモノトシトテ他ノ一ハ之ト同時ニ成立シテ第一ノ法律行為ノ效力ヲ消滅セシムルモノニ非ス其成就ニ因リテ直チニ法律行為ノ目的タル效力ヲ消滅セシムルモノニ非ス其成就ニ因リテ先ツ從タル法律行為ノ效力ヲ發生シ其結果タル法律行為ノ目的タル效力ヲ消滅セシムルモノニ至ルヘキモノナリ獨逸學

者中此說ヲ採ル者多シ而シテ此二ノ學說ハ管ニ理論上ノ爭タルニ止マラス其孰レヲ採ルカニ由リテ實際上異ナリタル結果ヲ生ス即チ例ヘハ不法ナル解除條件ヲ附シタル法律行為ハ若シ之ヲ前說ノ言フカ如ク一ノ法律行為ト爲ストキハ其法律行為ハ全部無効ト爲ラサルヘカラス之ニ反シテ若シ後說ノ言フカ如ク主タル無條件ノ法律行為ト停止條件附ノ從タル法律行為トノ二ヨリ成ルモノトセハ其從タル法律行為ハ無効ト爲ルヘキモ主タル行為ハ依然トシテ有效ノモノト謂ハサルヘカラス我民法ノ解釋上孰レヲ採ルヘキヤハ一ノ問題ナラヘシ然レトモ我民法ノ規定ヲ觀ルニ不法ノ條件ヲ附シタル法律行為ハ無効ナリトセリ第一三二條參照此規定ヨリ觀ルトキハ我民法ハ前說ヲ採用シタルカ如シ是レ予カ條件ヲ解釋シテ法律行為ノ目的タル效力ノ發生又ハ消滅ニ關スルモノト爲ス所以ナリ

二 未必條件、既定條件
未必條件トハ條件附法律行為ノ當時ニ於テ條件ノ事實カ發生スルカ又ハ發生セサルコトカ未タ確定セサル場合ヲ謂フ例ヘハ明日雨リタルナラハ予ハ宴會

ニ出席スルコトヲ見合ハサント云フカ如シ既定條件トハ法律行為ノ當時條件ノ事實カ發生スルカ又ハ發生セサルカハ既ニ確定セルモ當事者カ未タ之ヲ知ラサル場合ヲ謂フ例ヘハ普佛戰爭ノ際ニ普蒲西カ勝チシナラハ汝ニ金千圓ヲ與ヘント云フカ如シ第一三一一條

三 適法條件不法條件

不法條件トハ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項若クハ強行法ノ規定ニ背キタル事項ヲ條件ノ事實ト爲シタル場合ヲ謂フ例ヘハ汝カ人ヲ殺シタルナラハ金千圓ヲ與ヘント云フカ如シ第一三二條參照而シテ不法條件ニ非サルモノハ皆悉ク適法條件ナリ

四 可能條件不能條件

不能條件トハ到底成就スルコト能ハサル條件ヲ謂フ例ヘハ汝カ若シ富士山ヲ挾ミテ日本海ヲ越エタルトキハ金千圓ヲ與ヘント云フカ如シ第一三三條參照而シテ不能條件ニ非サルモノハ皆悉ク可能條件ナリ

入カ土地所有者ノ利益ヲ害セタル程度ニ於テ其土地ノ上下ニ加ヘラレタルトキハ其侵入ヲ拒ムコトヲ得スト規定セリ(獨逸民法第九〇五條是レ土地所有者ノ利益ナキ部分ニ對シテマテモ其權利ノ主張ヲ認ムヘキ理由ナキカ故ナリ又獨逸ノ學說ニ依レハ土地所有者ハ其地下ニ存在セル礦物ニ付テ所有權ヲ有スト主張スルモ我國ニ於テハ未タ探掘ヲ爲ササル礦物ノ所有權ハ當然國ニ屬シ一箇人ノ私有ヲ禁セルカ故ニ其土地ノ中ニ包含セル礦物ニ付テハ土地所有者ハ所有權ヲ主張スルコトヲ得ス(鑛業條例第二條參照)

第三節 所有權ノ内容

所有權ハ法令ノ範圍内ニ於テ法律上物ヲ支配スルコトヲ得ル權利ナルカ故ニ其内容ヲ明カニセントモハ法令ハ如何ナル限界ヲ設ケ積極的又ハ消極的ニ支配權ノ分量ト程度トヲ除外セルカヲ明カニセサルヘカラス隨テ左ニ所有權ノ限界ヲ列舉シ其内容ヲ明カニスヘシ

第一 動産ノ所有權ニ關スル限界

民法總則 所有權ノ内容

私法上ニ於テハ動産ニ關スル所有權ハ何等ノ制限ナシ公法上ノ制限トシテ徵發等ノ事アレトモ是レ私法ノ問題ニ非サルカ故ニ之ヲ省クヘシ

第二 土地所有權ニ關スル限界

土地所有權ノ制限ハ公法ニ依ルモノト私法ニ依ルモノトアリ公法上ノ制限ハ主トシテ公益ノ點ヨリ行政法ニ依リ土地所有權ヲ制限スルモノニシテ之カ詳細ノ説明ハ行政法ノ研究ニ讓ラサルヘカラス例ヘハ公共ノ用ニ供スル河川ノ沿岸ヲ所有スル者ハ其河川ト陸地トノ交通ニ付キ必要ナル使用ヲ許ササルヘカラサルカ如キ要塞地帯内ニハ軍事上ノ必要ニ因リテ或種類ノ建設物ヲ爲スヲ得タルカ如キ又保安林ニ編入セラレタル土地所有者ハ其伐林スルコトニ付キ一定ノ制限アルカ如キ是ナリ私法上ノ制限ニ關シテハ其重ナルモノハ相隣者間ノ關係ニ基クモノナリウヰグランドシャイド氏ノ如キハ近世ノ羅馬法論ニ於テ之ヲ列記シテ左ノ數種トセリ

イ 土地所有者ハ隣地所有者カ土地使用ノ性質上當然生スヘキ結果ニシテ例ヘハ煤煙、蒸氣、臭氣、音響等ヲ其所有地ニ侵入セシムルコトアルモ其侵入セ

程度カ過度ナラスシテ著シク土地使用權ヲ侵害セサル以上ハ之ヲ禁止スルノ權ヲ有セス

ロ 土地所有者ハ相隣者ノ一人カ疆界線ニ築カントスル障壁ヲ妨クルコトヲ得ス

ハ 土地所有者ハ隣地ニアル樹木ヨリ墜落セル果實ヲ取得セシムル爲メ隣人ヲシテ其土地ニ侵入スルコトヲ許ササルヘカラス然レトモ獨逸民法ニ於テハ樹木ヲ離レテ隣地ニ墜テタル果實ハ其地ノ果實ト看做スコトヲ規定セルカ故ニ此場合ニハ之カ適用ナシ(獨逸民法第九二條)

ニ 或土地カ公道ニ通スルニ必要ナル通路ヲ缺クトキハ隣地所有者ハ公道ニ通スルニ付キ其土地ノ使用權ヲ許ササルヘカラス

ホ 土地所有者ハ隣地ヨリ自然ニ雨水ノ流れ來ルコトヲ妨クルコト能ハス但隣人カ雨水ノ自然ノ流下ヲ變スルカ爲メ自己ノ土地ニ或物ヲ建設スルコトヲ許サス

ヘ 土地所有者ハ自己ノ土地ノ上ニ建設物ヲ作り之ニ依リテ隣人ノ家屋内ニ

侵入スヘキ空氣ノ通路ヲ妨タルコトヲ得ス
 以上ハ同氏ノ掲ケタル相隣者ノ關係ニ基ク制限ノ重ナルモノヲ列舉シタルニ
 過キス更ニ進ミテ我民法ノ規定ヲ分類シテ之ヲ左ニ説明スヘシ
 我舊民法ニ於テハ法律上ノ所有權ノ制限ノ外ニ法定ノ地域ナルモノヲ規定シ
 之ヲ特殊ノ物權トシテ財產編第百十八條以下ニ規定セリ然レトモ現行民法ハ
 全ク其主義ヲ破リ獨逸瑞西等ノ法律ニ倣ヒ法定ノ地域ナルモノヲ設ケスシテ
 法律ヲ以テ所有權ノ範圍ヲ定ムルモノトシ積極的又ハ消極的ニ所有權ノ内容
 ヲ明カニスルノ趣意ヲ以テ之ヲ規定セリ蓋シ土地所有者ハ自由ニ土地ノ使用
 收益處分ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論ナルモ之ヲ無制限ニ主張シ得ヘキモノトセ
 ズ相隣者ノ一方ハ自由ニ其土地ノ使用收益處分ヲ爲スコトヲ得サルコトアル
 ヘク互ニ利益ノ衝突ヲ生シ平穩ニ土地ノ利用ヲ完ウスルコト能ハサルニ至ル
 ヘシ故ニ相隣者ハ互ニ多少ノ讓歩ヲ爲シ均等ニ土地利用ノ利益ヲ享有セシム
 ル必要アリ是レ相隣者ニ關シテハ法律カ制限ノ規定ヲ設ケ互ニ讓歩スヘキ限
 度ヲ規定セル所以ナリ其重ナルモノヲ舉クレハ

一 土地所有者ハ隣人カ疆界又ハ其近傍ニ於テ建設物ヲ築造シ又ハ修繕スル
 ニ必要ナル程度内ニ於ケル其土地ノ使用ヲ許ササルヘカラス
 土地所有者カ土地ノ疆界線又ハ其近傍ニ於テ建設物例ヘハ家屋障壁等ヲ築造
 シ若クハ修繕セントセハ隣地ニ立入りテ工事ヲ爲ササレハ到底竣工スルコト
 能ハサル場合アリ然ルニ斯ル場合ニ於テ他人ノ土地ニ立チ入ルコトヲ得スト
 セハ土地所有者ハ自己ノ意思ニ反シテ之カ使用ヲ許ササルコトアルカ故ニ隣
 人ハ土地所有者ノ承諾ナケレハ己ノ目的トスル工事ヲ成功スルコトヲ得ス隨
 テ土地ノ疆界及ヒ其一定ノ距離ノ中ニハ所有者ノ單獨ノ意思ヲ以テ建設物ヲ
 設ケ土地ノ使用ヲ全カラシムル必要アリ(第二〇九條右ノ如キ場合ニ於テ之ヲ
 決定スルカ爲メニ特ニ之カ規定ヲ設ケ相隣者ノ利益ノ衝突ヲ調和シタリ
 二 袋地ニ隣セル土地所有者ハ袋地所有者カ公路ニ通行スルカ爲メニ土地ノ
 使用ヲ許ササルヘカラス

袋地トハ他ノ土地ニ圍繞セラレ又ハ他ノ土地ト池沼河川海洋ニ依リテ圍繞セ
 ラレ若クハ崖岸ノ爲メニ公路ト著シク高低ヲ爲ス土地ヲ謂フモノニシテ之ヲ

細別スレハ他ノ土地ニ依ルニ非サレハ絶對ニ公路ニ通行スルコトヲ得サルモ
 ノト他ノ土地ニ依ラサルモ掘割舟筏等ヲ造リテ之ニ依ラハ他ニ通行シ得ヘキ
 場合トアリ而シテ圍繞地ノ所有者及ヒ池沼河渠海洋ニ接近セル土地ヲ圍繞セ
 ル土地所有者ハ相隣者ニ對シテ公路ニ通スルカ爲メニ必要ナル土地ノ使用ヲ
 許ササルヘカラス(第二一〇條)即チ右ノ規定ニ依リ圍繞地ノ所有者ハ袋地所有
 者ノ通行權ニ服從スヘキモノナリ此通行權ハ袋地ノ使用ヲ全クセシカ爲メ已
 ムヲ得ス圍繞地ノ所有權ヲ制限スルモノニシテ其規定ノ趣旨ハ物ノ經濟的利
 用ヲ全カラシムルカ爲メニ土地所有權ヲ限定シタルモノナリ隨テ袋地所有者
 ノ通行權ハ通行ノ目的ノ爲メニ存スルモノニシテ之ヲ擴張シテ其土地ノ
 使用ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス而シテ如何ナル場所ニ通路ヲ開クヘキヤ又ハ其
 限度トシ而シテ必要ノ程度ニ付テ當事者間ニ協議調ハサルトキハ裁判所ノ認
 定ニ依リ之ヲ決定スヘキモノナリ故ニ袋地所有者ノ通行ヲ自由ナラシムル爲
 メニ種種ナル方法アルトキハ其中ニテ最モ圍繞地ノ爲メニ損害ヲ被ラシムル

コト少キ方法ヲ選ハサルヘカラス(第二一一條)又或土地カ分割者タハ一部ノ讓
 渡ニ因リ袋地ト爲リタル場合ニハ其土地所有者ハ公路ニ至ル爲メ他ノ分割者
 ノ所有地ニ限リ通行權ヲ有ス是レ土地ノ人爲的分割ニ因リ袋地ヲ生シタルモ
 ノナルカ故ニ他ノ分割者以外ノ圍繞地ヲ通行セシムヘキ權利ヲ與フル理由ナ
 ケレハナリ又分割前ニ於テハ其土地ヨリ公路ニ通スルコトヲ得ルモノナルカ
 故ニ通行權ニ服從スル土地所有者ニ對シ通行ノ爲メニ生スヘキ損害ヲ賠償ス
 ヘキ義務ヲ有セス之ニ反シテ分割ノ結果ニ非スシテ袋地ノ存スル場合ニハ公
 益ノ爲メニ圍繞地ノ所有權ヲ限定シ通行權ニ服從セシムルモノナレトモ元來
 此通行權ハ袋地所有者ノ土地ノ利用ヲ全カラシムルカ爲メニ與ヘタル通行權
 ニ外ナラサルカ故ニ之カ爲メニ圍繞地ニ損害ヲ加ヘタルトキハ袋地所有者ハ
 其損害ヲ賠償スヘキ責任ヲ有ス(第二一二條)第二二三條、獨逸民法第九一一條、第
 九一八條、
 三 土地所有者ハ隣地所有者ノ界標設置ノ請求ニ從ハサルヘカラス 土地ハ
 互ニ相接觸スルモノナルカ故ニ所有地ノ範圍ハ之ヲ表示スヘキ界標ヲ設置ス

ルコトニ依リテ明カニスルコトヲ得蓋シ界標線ノ不明ナルコトハ土地所有者
間ノ紛擾ヲ招ク端緒ナルカ故ニ豫メ其境界ヲ示シ足ルヘキ手段ヲ盡ササル
ヘカラス其手段ハ種種ナル方法アリト雖モ最モ簡短ニシテ其目的ヲ達シ得ヘ
キモノハ界標ノ設置ナリ界標ハ一般ニ石又ハ杭ノ如キ物ヲ以テ設ケラルルモ
必スシモ此等ノ物ニ限定セラルルモノニ非ス唯界標ノ性質トシテ相隣者ノ境
界ヲ明示シ得ヘキモノナラハ如何ナル方法ニ依ルモ妨ケナシ界標ノ設置ニ付
テハ多少ノ費用ヲ要シ又既ニ設置シタル界標モ破損シ毀損スルコトアルカ故
ニ之カ保存ヲ要スヘキハ勿論ナリ而シテ此等ノ設置及ヒ保存ニ要スル費用ハ
相隣者カ平分シテ互ニ其一半ヲ負擔セサルヘカラス若シ界標ヲ設置スルカ爲
メニ土地ノ測量ヲ要シ之カ爲メニ生シタル費用アラハ其費用ハ測量シタル土
地ノ坪數ニ按分シテ負擔スヘキモノナリ何トナレハ土地ノ測量費ハ坪數ニ應
ジテ増減スルヲ通例トスレハナリ

右ノ如ク界標物ノ設置及ヒ保存ノ費用ハ相隣者カ分擔スヘキモノナレトモ若
シ相隣者ノ一人カ故意又ハ過失ニ因リ界標ヲ破壞シタルトキハ自ら其修繕又

ハ設置ノ費用ヲ支辨スヘキモノニシテ他ノ相隣者ニ對シテ其費用ヲ分擔セシ
ムルヲ得ス是レ自己ノ故意又ハ過失ニ因リテ生シタル損害ニ付キ他人ヲシテ
負擔セシムルコト能ハサルハ當然ナレハナリ

四 土地所有者ハ隣地ヨリ自然ニ流レ來ル水ノ浸入ヲ妨クルコト能ハス舊
民法ハ自然ニ高地ヨリ流レ來ル雨水及ヒ泉水ヲ受タルノ義務アリトシ高低ノ
土地ノ間ニ於ケル關係及ヒ水ヲ雨水ト泉水トニ限定シタリシモ現行法ハ單ニ
「降地ヨリ」トセルカ故ニ必スシモ土地ノ高低ニ基キ水ノ流レ來ルノミニ限定セ
ラレス土地ノ高低ニ關係ナク溢レタル水ノ自然ニ流レ來ルモノヲモ包含ス單
ニ水ト云フ以上ハ雨水ナルト泉水ナルト又ハ自然ノ溢水ナルトノ別ナキハ勿
論ナリ右ノ如ク相隣者ハ土地ノ自然ノ關係ニ基キ水ノ流レ來ルコトヲ妨クル
コトヲ得スト雖モ相隣者ノ一人カ人工ニ因リテ雨水ヲ隣地ニ流下セシムルカ
如キ屋根其他ノ工作物ヲ設クルコト能ハス又水ノ流カ天災地變等ニ因リ疏通
ヲ妨ケラレタルトキハ土地所有者ハ隣地ニ立入り其工事ヲ爲スコトヲ得最モ
其工事ハ水ノ疏通ヲ目的トスルモノナルカ故ニ其目的ノ範圍内ニ於テノミ隣

地ヲ使用セサルヘカラス又其工事ハ高地ノ所有者ノ爲メニスルモノナルカ故ニ高地ノ所有者ニ於テ之ヲ負擔スヘキモノナリ又土地所有者ハ隣地ヨリ水ノ自然ニ流レ來ルコトヲ妨クルコト能ハサルモ隣地ニ於テ水ヲ蓄ヘ又ハ水ヲ引キ若クハ水ヲ排泄スルカ爲メニ必要ナル工作物ヲ設ケタル場合ニ其工作物ノ破損又ハ閉塞等ニ因リ自己ノ土地ニ損害ヲ及ホシ又ハ損害ヲ及ホス虞アルトキハ隣地所有者ヲシテ其耕作物ノ修繕ヲ爲サシメ其貯水ノ疏通ニ必要ナル工事ヲ爲スヘキコトヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ土地所有者ハ損害ヲ被リタルトキハ舊民法ニ於テハ急害告發ノ訴ヲ起シ相手方ヲシテ危害ヲ排除スルニ必要ナル豫防工事ヲ爲サシメ既ニ生シタル損害ヲ賠償セシムルコトヲ得ト規定セラルモ現行民法ハ第二十六條ニ於テ單ニ修繕又ハ疏通ヲ爲サシメ必要アルトキハ其害ヲ排除スヘキ豫防工事ヲ爲サシムルコトヲ得ルコトノミヲ規定シ既ニ生シタル損害ニ付テハ何等ノ規定ヲ設ケス然レトモ其損害カ當事者ノ過失ニ因リテ生シタルトキハ不法行爲ノ原則ニ基キ其損害ヲ請求スルコトヲ得ヘク(第七一七條)又占有ヲ妨害セラレタリト認ムル場合ニ於テハ占有訴權

ニ依リテ之カ救済ヲ求ムルコトヲ得ヘシ(第二一四條乃至第二一六條第二一八條)

土地ノ所有者ハ貯水排水又ハ引水ノ爲メニ設置シタル工作物ヲ修繕スル義務ヲ有スルモノナルカ故ニ其修繕ニ必要ナル費用ハ自ラ之ヲ支辨セサルヘカラス然レトモ特別ノ慣習例ヘハ相隣者カ共同シテ其工作物ノ修繕ノ費用ヲ負擔スル等ノ慣習アルトキハ固ヨリ其慣習ニ從フヘキモノナリ(第二一七條)

五 低地所有者ハ高地ノ浸水ヲ乾カス爲メ又ハ高地所有者ノ家用農工用ニ使用シタル餘水ヲ排泄スルカ爲メ公路公流又ハ下水道ニ通スルニ必要ナル土地ノ使用ニ服從セサルヘカラス此關係ハ袋地ノ所有者カ公路ニ通スルニ必要ナル通路ヲ圍繞地ノ所有者ニ對シテ要求スル場合ト相類セリ然レトモ袋地ノ場合ニハ圍繞地ノ所有者ノミ袋地所有者ノ通行權ニ服スルモノナレトモ此場合ニ於テハ圍繞地ノミニ限ルモノニ非スシテ低地ノ所有者ナル以上ハ高地ニ接近スルト否トヲ問ハス高地ノ水ヲ通過セシメサルヘカラス舊民法ニハ如何ナル場合ニ於テモ建物ノ下又ハ住家ニ接近シタル庭園ヲ經テ水ノ通過ヲ要求ス

ルコトヲ得スト規定セルモ民法ニ於テハ單ニ低地ノ爲メニ損害ノ最モ少キ場所及ヒ方法ヲ擇フヲ必要トスルコトヲ規定シタルニ過キサルカ故ニ他ニ最モ損害少クシテ水ヲ通過セシムル方法アルトキハ格別然ラサル以上ハ建物又ハ住家ニ接近シタル場所ニテモ其通過ヲ許ササルヘカラス民法ニ於テハ袋地所有者ノ有スル通行權ニ因リテ損害ヲ加ヘタルトキニハ損金ヲ拂フコトヲ要スル旨ヲ規定シ本條ノ場合ニ於テハ水ヲ通過セシムルニ因リ生スル損害ニ付テハ何等ノ規定ヲ認ケサルカ故ニ高地所有者ハ低地ニ水ヲ通過セシメタル結果トシテ加ヘタル損害ハ之ヲ賠償スヘキ責任ヲ有スルヤ否ヤハ多少ノ疑アレトモ本條ノ場合ハ隣地ヨリ自然ニ流レ來ル水ヲ受クルノ義務ト異ナリ法律ハ高地所有者ノ利益ノ爲メ低地所有者ニ對シテ水ノ通過ヲ許スヘキコトヲ定メタルニ過キス高地所有者ノ請求ヲ埃タスシテ當然ニ生スルモノニ非サルカ故ニ水ヲ通過セシムルカ爲メニ生シタル損害アラハ其損害ハ固ヨリ高地所有者ニ於テ之ヲ辨償スヘキハ當然ナリ(第二二〇條)

六 水流地ノ所有者ハ對岸ノ土地カ他人ノ所有ニ屬スルトキハ其水路又ハ幅

第三 因果關係ノ中斷

ハ其結果ヲ異ニスヘシト判斷シ得ヘキトキモ亦純理上因果關係アリト謂フヘシト爲スナリ
 所謂因果關係ノ中斷ナル語句ハ學者之ヲ二様ノ意義ニ使用スルカ如シ
 一 廣ク刑法上因果關係ノ存在セサル事實
 二 理論上因果關係ノ存在スルニ拘ハラス刑法上之ヲ認ムヘカラサル事實
 故ニ予ハ中斷ナル語句ヲ狹義ニ解シ所謂因果關係ノ中斷ヲ因果關係ノ不存在及ヒ因果關係ノ中斷ニ區別シテ攻究セントス
 第一 因果關係ノ不存在 因果關係ハ動作ナカリシトスルモ一定ノ事實ヲ生スヘカリシ場合ニ於テハ存在セス故ニ動作アリタル場合ニ於テモ他ノ獨立ノ原因ニ因リ生シタル事實ニ對シテハ因果關係ヲ有セス
 第二 因果關係ノ中斷 因果關係ハ刑法上之ヲ認ムヘカラサル事由ニ因リ中斷ス故ニ上述シタル如ク

論ニ對 犯意ニ依ル動作ヲ仲介スルニ因リテ中斷シ

第三 因果關係ノ進行カ基本タル罪ノ本質ニ適應セサルニ因リテ中斷スル中

第三項 消極的罪態

第一目 總說

消極的罪態トハ違法ヲ除却スル事實ヲ謂フ蓋シ違法トハ法律の秩序ニ關スル命令又ハ制禁ニ背戾スルコトヲ謂フ然ラハ如何ナル行為ハ違法ナル行為ニシテ如何ナル行為ハ違法ナラサル行為ナルヤハ國家ノ全般ノ法規ヨリ之ヲ論定セサルヘカラス而シテ國家ハ秩序維持ノ必要ニ應シ臣民ノ或種ノ行為ハ之ヲ罪ト爲シ刑ヲ科シテ之ヲ禁令ス凡シ刑法規ノ規定スル罪目ニ觸ルル行為ヲ爲セシ者ハ概テ之ヲ法律ニ違背シタル者ト謂フコトヲ得ヘシ故ニ原則トシテ言ヘハ刑法規ノ規定シタル罪目ニ觸ルル行為ハ明文ヲ以テ違法ナラサルコトヲ規定シタル場合ニ非スハ之ヲ違法ナラサル行為ナリト爲スヘキモノニ非ス明文ヲ以テ違法ナラサルコトヲ規定シタル場合トハ刑法規ニ於テ概括的ニ一行爲

ヲ罪ト規定スルト共ニ刑法其他ノ法律ニ於テ同一ノ行為ヲ爲ス義務又ハ權利ヲ認メタル場合ヲ謂フ要スルニ刑法規ニ規定シタル罪目ニ觸ルル行為ハ概テ之ヲ違法ナル行為トシ只同時ニ刑法其他ノ法律ニ於テ同一ノ行為ヲ臣民ノ爲ササルヘカラサル義務行為又ハ爲スコトヲ得ヘキ權利行為ト爲シタル場合ニ限リ之ヲ適法ナリト云ハサル可カラス故ニ違法ヲ除却シテ適法ト爲ス事實ハアル行為ヲ違法行為從フテ罪ト爲スニ付キ存在ス可カラサル罪態ナリト云フコトヲ得是レ違法ヲ除却スル事實ヲ消極的罪態ト爲ス所以ナリ現時ノ通説ハ違法ナル事實モ亦積極的罪態ノ一ナリトスルニ在リト雖モ之ヲ採ラス所謂違法ヲ除却スル事實トハ刑法規ニ規定シタル罪目ニ觸ルル行為ヲ爲スコトカ義務又ハ權利ナル事實ヲ謂フモノトス然ラハ違法ノ除却ニモ二様ノ區別ヲ爲スコトヲ得一ハ義務ナリシニ因ルモノニシテ一ハ權利ナリシニ因ルモノナリトス

第二目 義務

第一段 職務

國家ハ統治ノ必要上幾多ノ官職ヲ設ケ各官吏ニ分任シテ之ヲ執行セシム此等ノ事務執行ヲ命セラレタル官吏ハ其任務ヲ遂行スル權利ト義務トヲ有ス然ラハ官吏カ其職務ヲ以テ爲シタル行爲ハ縱令刑法規ノ規定スル罪目ニ觸ルル行爲ナリトスルモ之ヲ違法ナリト謂フコト能ハサルヤ明瞭ナリ
官吏ニ上級及ヒ下級ノ區別アリ其職務ノ範圍内ニ於テハ相互ニ命令服從ノ關係ヲ有ス下級官吏ト雖モ其職務ヲ以テ爲シタル行爲カ其違法ヲ除却セラルヘキコトハ固ヨク論テ埃タス然レトモ上級官吏ノ命令ニ依リ職務外ニ於テ爲シタル行爲ノ責任如何ニ付テハ古來學者間ニ異說アル所ナリ蓋シ職務ノ範圍如何ハ下級官吏ノ定ムヘキ事項ニ非スシテ全然上級官吏ノ裁量スヘキモノニ屬ス今下級官吏ハ事實上自己ノ職務外ノ行爲ナルコトヲ知悉スト雖モ適法ニ命令權ヲ有スル上級官吏ニシテ之ヲ爲サンコトヲ命令セリトセハ下級官吏ハ其命令ニ從ヒ之ヲ遂行セサルヘカラサル如シ是レ上級官吏ノ違法ノ命令ニ依ル

下級官吏ノ行爲ノ責任問題ヲ生スル所以ナリ蓋シ所謂違法ノ命令ノ場合ニ於テモ常ニ違法ヲ除却セスト謂フヘカラサルハ敢テ論テ埃タス然ラハ尙ホ殘留スル疑問ハ違法ノ命令ノ效力トシテ違法ヲ除却セシムヘキ場合如何ナリトス現時ノ通說ニ依レハ違法ノ命令ハ下級官吏カ其上級官吏ニ對シ絕對ニ服從スヘキ者ニ付テノミ違法ヲ除却スヘシト爲ス如シ故ニ絕對ノ服從關係ヲ有セサル下級官吏カ違法ノ命令ニ從ヒ職務外ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テハ當然其責任ヲ負擔セシムヘキナリ然レトモ此場合ニ於テモ仍ホ刑法第七十七條第二項及ヒ第七十五條第二項ノ規定ノ適用アルコトヲ遺忘スヘカラス
刑法第七十六條ノ規定ハ不備且不當ニシテ合理的ノ解釋ヲ爲シ難シト雖モ其眞意ハ第一 本屬長官ノ命令ニ依ル行爲ナルコト第二 職務ヲ以テ爲ス行爲ナルコトノ二條件ヲ具備スルトキハ其行爲ハ違法ニ非スト云フニ在ル如シ蓋シ職務ヲ以テ爲ス行爲トハ客觀的ニ職務内ノ行爲ヲ指示スル意ナルヘク既ニ客觀的職務行爲ナリトセハ其本屬長官ノ命令ニ依ルト否トハ違法ノ除却ニ何等ノ影響ヲモ及ボサスシテ此解釋ヲ採用スレハ本條ハ不要ナリ又職務ヲ以テ

爲ス行爲ヲ主觀的ニ職務ト思惟シテ爲ス行爲ナリトセハ事實上職務外ノ行爲ナリシ場合ニ於テ常ニ違法ヲ除却スト謂フハ現時ノ通説ニ反シ此解釋ヲ採用スレハ本條ハ不當ナリ

第二段 狹義ノ公務

狹義ノ公務トハ職務以外ノ公務ヲ謂フ然ラハ公務ニ因ル違法ノ除却トハ極メテ廣キ範圍ニ亙ルモノニシテ凡テ特殊ノ資格ヲ有スルニ因リ國法上國家ニ關スル事務ノ一部ヲ遂行スル者其遂行ノ際ニ爲シタル行爲ハ縱令刑法規ニ規定スル罪目ニ觸ルル行爲ナリトスルモ之ヲ違法ナル行爲ト謂フコトヲ得サルヲ以テ罪ト爲ササルコトヲ謂フ公務ニ種種アリ鑑定人タル公務證人タル公務官運辯護人タル公務自治體ノ吏員タル公務一般國民ニ屬スル公務等ハ其主要ナルモノニシテ其公務ノ執行ニ際シテハ屬刑法ニ規定スル罪目ニ觸ルル行爲ヲ爲スモノトス

第三目 權利

第一段 業務權

業務權ハ多種多樣ナリト雖モ其主要ノモノノミヲ掲ク
第一 醫師ノ業務權其從來醫師ノ傷害行爲ノ責任ヲ論スル者皆罪タラスト爲スハ一ナリト雖モ其断定ヲ得ル所以ノ方法ヲ異ニス
第二見解 醫師ノ傷害行爲ハ毆打創傷罪ニアラスト爲ス見解
第三見解 醫師ノ傷害行爲ハ毆打創傷罪ノ犯意ヲ欠缺スト爲ス見解
目一 被害者ノ承認アルニ依リ違法ニアラスト爲ス見解
目二 科學上ノ法則ニ違由スル限界内ニ於テハ國家ノ承認アルヲ以テ違法ニ
子ハ第三見解ヲ正トシ業務權ノ適用ニ因リ醫師ノ傷害行爲ヲ罪ト爲ラサルモ

トト爲ス 且テ五ノ業務權ノ範圍ニ因テ醫師ノ業務權ヲ行使スルコトヲ要セスシテ或ハ病者以外ノ人ニ對スルコトアリ又必スシモ治療ノ目的ニ出ツルコトヲ要セスシテ或ハ治療行爲ニ牽聯スル實驗其他ノ目的ニ出ツルコトアリ

胎兒ノ傷害行爲ハ立法論トシテハ醫師ノ業務權及ヒ危急狀況權ノ適用トシテ其違法ヲ除却スルコトヲ可トス而シテ刑法上業務權ノ適用トシテハ只醫師ノ爲シタル胎兒ノ傷害行爲ノミニ關ス可ク危急狀況權ノ適用トシテハ只醫師ノアラナル者自己又ハ其親屬ノ爲メ其胎兒ヲ傷害シタル行爲ノミニ關ス可シ醫師ニアラスシテ其親屬ニアラサル者ノ爲メ胎兒ヲ傷害シタル者ハ或ハ刑法上ノ責任ヲ免カレルコトヲ得ナラン

第二 角力業者ノ業務權 角力業者ハ力ヲ角シテ勝敗ヲ争フ者ナリ或ハ其結果トシテ敵手ヲ殺傷スルコトナキニ非ス學者或ハ角力業者ニ關スル違法除却ヲ以テ被害者ノ承諾ニ因リテ爲ス者アリト雖モ不當ナリ予ハ角力業者ノ傷害

以ナリ 一般ニ地役ヲ分類スレハ積極的地役ト消極的地役ト二種ト爲スコトヲ得積極的地役トハ自國ノ爲サスシテ可ナル事ヲ爲スヘキ義務ヲ負フ場合ナリ例ヘハ條約ニ由リテ火藥庫ノ用ニ供スル土地ヲ他國ニ貸與スルカ如ク又自ラ城砦ヲ毀タサルヘカラナルカ如シ之ニ反シテ消極的地役トハ自國ノ爲シ得ル權利ヲ爲スコト能ハサルモノナリ例ヘハ或土地ニ城砦ヲ築クコト能ハストノ制限ヲ受ケタル場合ノ如シ

乙 形式上ノ權利

國家ハ原則トシテ全ク對等ナリ版圖ノ廣狹國民ノ多少兵力ノ強弱ノ如キハ形式ニ於テ國家ノ不同等ナルコトヲ現ハスモノニ非ス國家カ總テ同等ナリトノ原則ヲ否定スル學者ハ「ロリマ」「ローレンス」等ニ過キス古ニ於テハ共和國ヲ以テ君主國以下ノ地位ニ在ルモノナリト爲シタルトモ此考ハ英吉利ノ「クローン」時代及ヒ佛蘭西ノ第一共和制時代ヨリ止ムニ至リタリ此原則アルニ拘ハラ

唯一ノ例外トシテ認メラルル所ハ王の榮譽ヲ有スル國ト之ヲ有セサル國トノ間ノ區別ノミ王の榮譽ヲ有スル國トハ帝國王國大共和國大公國ニシテ其他ノ國家ハ王國榮譽ヲ有セサル國家ナリ王の榮譽ヲ有スル國家ハ第一級ノ公使即チ全權大使ヲ授受スルノ權利ヲ有スレトモ王の榮譽ヲ有セサル國家ハ斯ル權利ヲ有セズ

國家カ如何ナル名稱ヲ有シ又如何ナル號ヲ附シ國家ノ元首カ如何ナル尊稱ヲ用フルヤハ全ク國家ノ自由ナリ唯一箇ノ制限トシテ一國カ他國ノ名稱ヲ用フルコト能ハサルコトト一國ノ元首カ他國ノ元首ノ稱號ヲ僭スコト能ハサルコトトアルノミ故ニ例ヘハ從來ノ共和國カ君主國ト爲ルカ如キ君主國カ共和國ト爲ルカ如キ王國カ帝國ト稱スルカ如キ公國カ王國ト爲ルカ如キ某國王カ某國皇帝ト稱スルカ如キ全ク自由ナリ例ヘハ千八百八十一年ルーマニヤカ王國ト爲リタルカ如ク明治二十九年朝鮮カ帝國ト爲リタルカ如キ千八百七十七年英國女皇カ印度女帝ト爲リタルカ如シ然レトモ今日ノ國際法ハ唯之ヲ以テ各國ノ權利ト看ルノミニシテ他國カ之ヲ承認セサルヘカラサルノ義務ヲ認メズ

故ヲ以テ他國ニシテ若シ之ヲ承認セサルトキハ該名稱ノ變更ハ外國ニ對シテ效力ヲ有スルコトナシ例ヘハ露西亞カ帝國ト稱スルコトヲ佛蘭西其他ノ國家コト永ク認メザリシカ如シ

國ト國トノ間ニ談判ヲ開クトキハ其談判ノ方式ハ原則トシテ其方式ヲ行フ場所ノ用フル所ニ依ル故ニ此事ニ付テハ私法上ノ場所ハ行爲ヲ支配スルノ原則ヲ採用シタルモノト看ルコトヲ得ヘシ隨テ甲國ノ使節カ乙國ニ赴キタルトキハ其方式悉ク乙國ノ定ムル所ニ從フコトヲ要ス但其方式カ甲國ノ使節ヲ侮辱スルモノナルトキハ此限ニ在ラス又兩國ノ合意ニ依リ各其本國ノ採ル所ノ儀式ニ依ルコトヲ得ヘク又ハ其他ノ方式ニ依ルコトヲモ得ヘシ

列國會議ノ場合ニ各國ノ君主全權大臣等カ著席ヲ爲スノ順序ニ付テハ古ヨリ爭議ヲ絶タザリキ千五百年羅馬法王ハ各國ノ順序ヲ設ケテ此順序ニ從ヒテ著席スヘシト定メタレトモ殆ト全ク行ハルコトナカリキ隨テ古ニ於テハ或ハ元首ノ即位ノ順序ニ從ヒ或ハ全權大臣ノ任命ノ順序ニ從ヒ其他年齡ノ高下或ハ每會席順ノ交換ヲ爲ス等ヲ以テ一時ヲ糊塗シタルコトアレトモ何レモ決

定のニ行ハルルコトナカリキ今日ニ於テハ此等ノ順序ハ國家ノ名稱ノアルハ
 ベト順ニ從フコトヲ認メ其國家ノ名稱ハ佛蘭西語ノ呼フ所ニ從フヘシト爲セ
 リ獨リ列國會議ノ著席順ニ於テ然ルノミナラス萬國條約ノ記名調印ノ順序モ
 亦然リ二箇國條約ニ於テハ雙方各自國ニ取ル所ノ文面ニ自國ノ名稱及ヒ自國
 元首代表者ノ名稱ヲ先ニスルノ例ナリ萬國會議ニ用フル言語ハ佛蘭西語ヲ拒
 否スルコト能ハス萬國條約ニ記載スル文字モ亦然リ二國會議ニ用フル言語及
 ヒ二國條約ニ記載スル文字ハ該二箇國ノ合意ニ依リテ決スヘキモノナリ
 海上ノ禮式ハ國法又ハ條約ニ一任スルモノナレトモ一般ノ原則トシテ採用セ
 ラルル重ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ
 君主皇族又ハ大使ノ船ニ遭遇シタル船舶ハ其船舶ヨリ先ニ禮スヘキモノナ
 リ
 他國ノ領海内ニ入ルトキハ入りタル船舶ヨリ先ニ禮スヘキモノナリ
 軍艦ト軍艦ト又ハ艦隊ト艦隊ト遭遇シタルトキハ艦長又ハ司令長官ノ地位
 高ク低キモノヨリ先ニ禮スヘキモノナリ

在リテハ其判決ノ效力カ絶対的ノモノトス隨テ其裁判ニ係ル事件ニ付キ拿捕
 者ハ其後拿捕物ノ原所有者ニ對シ他國ニ於テモ何等ノ責任ヲ有スルコトナク
 他國モ亦同一事件ヲ再審又ハ覆審スルコト能ハス然レトモ其判決カ國際公法
 上不當ナルトキハ其責任ハ裁判所本國ニ屬シ被害人民ノ本國政府ニ對シテ其
 責ニ任スヘク此場合ニ於テ國際公法ニ背反スルカ又ハ寬嚴ニ失シタル内國法
 アルモ其規定ハ國際談判上抗辯ノ理由ト爲ルコトナシ又捕獲審檢所ノ裁判手
 續ハ各國ノ法令ヲ以テ任意ニ規定シ得ル所ナレトモ拿捕者ハ其拿捕物ノ提供
 ト共ニ拿捕ノ事由及ヒ其正當ヲ證スヘキ一切ノ事項ヲ記載シタル供述書ヲ證
 據書類ト共ニ法廷ニ出シ法廷ハ被捕船ノ艦長及ヒ海員ノ口述ヲ聽取リテ調査
 書ヲ作り其審判ニ於テハ拿捕行為ハ正當ト推測セラレ拿捕物ノ所有者又ハ關
 係者ニ於テ其反證ヲ舉クヘク捕獲審檢所ニ於ケル審判ノ結果ニシテ若シ罰金
 捕セラレタルモ沒收スヘカラサルモノト決定スルトキハ之ヲ放免シテ其附帶
 ノ費用ハ船舶所有者ニ於テ負擔スヘク若シ又何等拿捕ノ理由ナクシテ引致セ

ラレタルモノナルモキニ拿捕者本國ニ於テ航海ノ遲延其他ノ費用ヲ負擔スヘク荷クモ捕獲審檢所ノ審判ニ於テ其捕獲ノ不當ヲ示スニ足ルヘキ立證ヲ拿捕者ノ所有者若クハ其關係者ニ於テ充分ニ爲シ能ハサルモノハ悉ク沒收シ又拿捕ノ理由アル場合ニ於テハ拿捕者ノ怠慢又ハ過失ニ出テタル損害ヲ拿捕船舶又ハ載貨力受タルコトアルモ拿捕者ハ其賠償ノ義務アルコトナシ

第五章 戰闘方法ニ關スル法則

第一節 總則

交戰國ハ海陸ノ戰闘ニ於テ敵國ニ加ヘ得ヘキ暴力ノ程度ニ付キ戰爭ノ目的ヲ達スルニ必要ナル慘酷ヲ制限シ其兵力抵抗ヲ滅殺スルニ必要又ハ不適當ナル苦痛ヲ與フル行爲ヲ禁セラレ戰爭ノ目的ニ反シ若クハ之ニ比例セサル暴力ノ濫用ヲ許ササルモノトス加之交戰國ハ互ニ全然敵對ノ地位ニ立ツモノナカレトモ素ト人類相互間ノ戰爭ナルカ故ニ其間ニ於テ幾分カ好誼上ノ行爲カ自カラ行ハルヘキコトハ人類社會ニ伴ヒタルノ現象ニ屬シ古來戰爭ニ於テ必ス

斯ル行爲ノ形跡カ存在シ來リタルモノトス然レトモ其好誼的ノ關係タル固ヨリ國家間ノ平和關係ト同一ノモノニ非ス單ニ交戰者間ニ於テ戰爭關係ノ存續スルニ拘ハラス一時的ニ暴力ノ行使ヲ中止スルニ止マルモノニシテ斯ル好誼ノ交通ヲ實行セントスルノ時期ハ交戰者雙方ノ希望ニ出テ其雙方ノ便宜ニ基クヘキモノナルカ故ニ戰爭中ニ於テ之ヲ實行スルト否トハ交戰者各方ノ任意ニ屬シ其各場合ノ事情如何ニ基クヘキモノトス然レトモ荷クモ一定ノ好誼的關係ヲ行ハントスルニ際シテハ其實行ニ當リ國際公法上一定ノ慣例カ存在スルカ故ニ交戰國ハ誠實ニ其慣例ノ實行ヲ努ムヘク違反アルニ於テハ對敵國ニ於テ報仇ノ手段ニ出テ得ヘキモノトス此慣例ヲ名ケテ交戰國間ノ平和的交通又ハ非敵意ノ關係ト謂フ

第二節 敵人ニ對スル加害ノ程度

平和會議ノ陸戰ノ法規慣例條約二十二條ニ於テモ交戰者ハ害敵手段ノ選擇上無限ノ權力ヲ有スルコトナシト規定シ敵國非戰闘員ニ對シテハ勿論戰闘者

ニ對シテモ之ニ加害ノ程度ハ國際公法上一定セラレ居ルモノトス今戰闘ノ方法中ニ付キ不法トシテ新法上嚴禁セラレ居ルモノヲ列舉セハ普通ニ戰時ノ第一 暗殺 戰爭ノ勝敗ハ往往敵國ノ君主又ハ重要ナル文武官若クハ敵軍ノ將帥ノ在否ニ關スルコト多キヲ以テ昔時ノ戰爭ニ於テハ暗殺カ行ハレ羅馬ニ於テモ暗殺ノ種類ニ由リテハ其舉ヲ賞賛シ「グロニウス」モ暗殺ニ付キ德義ヲ害スルモノト然ラサルモノトヲ區別シテ暗殺ノ正當ナル場合ト否トヲ論シタレトモ今日ニ於テハ暗殺ハ全ク之ヲ嚴禁セラレ「ブルッセル」宣言ニモ敵國又ハ軍隊ニ屬スル箇人ヲ詐術ヲ以テ殺害スルヲ禁ストノ規定アリ茲ニ暗殺ト云ヘルハ兵士又ハ箇人ノ服裝形狀ヲ變シ欺罔ノ口實ヲ構ヘテ敵人ヲ詐リ若クハ其營中ニ忍ヒ入り將帥其他ヲ殺害スルモノニテ斯ル行爲ヲ爲ス者ハ固ヨリ文明諸國ノ慣例ニ背キ其德義ヲ破壞スルノ行爲ニシテ戰爭ノ不必要ナル慘狀ヲ滅却セントスル近世ノ趨勢ニ戾ルカ故ニ之ヲ卑ムヘキ戰爭法ノ犯則ト爲スノミナラス斯ル刺客ヲ使用シ獎勵シ又ハ補助スルハ文明國ノ不名譽ニシテ憎ムヘキ行爲ナルカ故ニ決シテ國際公法上之ヲ行フコト能ハス隨テ日清戰役ノ當時清國

政府ハ我國ノ將帥若クハ兵士ノ首級ヲ懸賞シテ求メタルカ如キハ皆不法トス然レトモ暗殺ト襲撃トハ之ヲ混同スヘカラスシテ例ヘハ軍服ヲ著シタル兵士カ單獨ニ敵陣中ニ入り若クハ軍人ノ一團カ暗夜ニ乘シ竊ニ敵營ニ入りテ將帥ヲ殺害スルカ如キハ決シテ暗殺ニ非スシテ却テ勇敢ノ行爲ナリトス

第二 毒藥 毒藥ヲ使用スルハ古來戰爭ニ於テ行ハレタルモ文明ノ進歩ト其ニ戰爭ニ於テ不入情ナル手段ヲ不法ト看做スニ至リ「グロニウス」ヲ始メ諸學者ハ毒藥ノ使用ヲ非難シテ文明國人ノ行爲ニ背反スルモノトシ諸國ノ國法ニ於テモ之ヲ禁スルコトトナリ「ブルッセル」宣言オツクスフオード陸戰法規ニモ其禁止ノ明文アリ方今ニ於テハ陸戰ノ法規慣例條約第二十三條ニ於テ

毒又ハ毒ヲ施シタル兵器ヲ使用スルコト

ヲ嚴禁シタル如ク凡テ敵國人ノ生命及ヒ財產ニ對シ有力ナル加害ノ武器其他ノ物件ヲ發明シテ之ヲ使用スルハ適法ナレトモ毒藥ノ武器ヲ用フルハ戰爭ノ慘酷ヲ加フルニ止マリ其彈丸又ハ刀劍ニ依リテ既ニ負傷シ戰闘ニ堪ヘサルニ至リタル者ニ對シテ無益ナル苦痛ヲ生スルニ止リ其傷痕ヲシテ全治ノ途ナカ

ヲシムルニ過キサルヲ以テ戰闘ノ方法トシテ之ヲ禁止スル所以ナリトス此故ニ兵器彈藥中ニ毒藥ノ使用ヲ禁スルノミナラス一般ニ毒ヲ使用スルコトヲ不法トシ殊ニ飲用水又ハ食物飲料ニ毒藥ヲ使用スルハ一層嚴禁スル所トス何トナレハ前述ノ理由ニ因リ是レ管ニ敵國ノ戰闘力ヲ滅却スルニ必要ナル陰險的行爲ナルノミナラス糧食飲料ニ之ヲ使用スルコトヲ許スニ於テハ無辜ナル人民即チ敵國戰闘者以外ノ者モ之ニ依リテ悲惨ナル毒殺ヲ被ルヘキ危險アルヲ以テナリ又之ト同一ノ理由ニ因リ平和會議ニ於ケル宣言ヲ以テ締盟國ハ蜜思セシムヘキ瓦斯又ハ有毒質ノ瓦斯ヲ撒布スルヲ唯一ノ目的トスル投射物ノ使用ヲ禁止スルコトト爲セリ

第三 無益ノ苦痛ヲ與フル彈丸 戰争ハ敵ノ兵力抵抗ヲ殺クコトヲ其目的ト爲スカ故ニ千八百六十八年十二月西班牙ヲ除クノ外歐洲強國ハ露國ベテアルゾニ代表者ヲ送り交戰國ノ陸軍又ハ海軍ニ於テ四百瓦以下ノ重量ナル彈丸ニシテ爆裂的ナルモノ若クハ爆發又ハ燃燒シ易キ物質ヲ包含スルモノヲ戰闘ニ使用スルコトヲ禁止スル宣言ヲ爲セリ此宣言ハ諸國ノ批准ヲ了スルニ至ラ

ス又之ニ贊同ヲ明言セサルモノアレトモ現行文明國ノ慣例上同一ノ彈丸ヲ用ヒ敵國戰闘者ニ對シテ不必要ノ苦痛ヲ與ヘ治療スヘカラサルノ負傷ヲ蒙ラシムルコトハ到底爲スヘカラサルニ至リタルカ故ニ同宣言ニ規定シタル事項ハ自ラ國際公法ノ一部ト爲リ「ブルセル」宣言ニ於テモ之ヲ援用シ又兵器彈藥其他戰争用ノ物件ニシテ右宣言以外ノモノト雖モ苟クモ不必要ノ苦痛ヲ與フルモノハ凡テ其使用ヲ禁セラルルニ至レリ此故ニ陸戰ノ法規慣例條約第二十三條ニ於テモ

無益ノ苦痛ヲ與フヘキ兵器彈丸其ノ他ノ物質ヲ使用スルコトヲ嚴禁スルノ明文アリ此故ニ今日ニ於テ四百瓦以下ノ爆裂彈ヲ使用スヘカラサルノミナラス鐵片其他ノ金屬又ハ硝子等ヲ大砲小銃ニテ發射スル如キコトハ一般ニ許ササル所トス

又普通ノ彈丸ト雖モ不規則ナル形狀ヲ爲シタルモノヲ發射スルハ負傷者ニ無益ナル苦痛ヲ與フルノ理由ヲ以テ不法トシ先年平和會議ノ議場ニ於テモ英國ノ埃及遠征ニ用ヒタル「ダムダム」丸ト稱シテ人體ニ入り其一端ノ膨脹スル彈丸

ヲ非難シ英國代表者ハ同爆發ノ性質ハ斯ル非難ヲ來スヘキモノニ非ヌ又野蠻人ニ對シテハ一層有效ナル彈丸ヲ使用セサルニ於テハ其戰鬪力ヲ失ハサルカ故ニ文明國間ノ戰爭ヨリモ稍殘酷ナル彈丸ヲ使用スルノ止ムヲ得サルコトヲ辯シタレトモ遂ニ同會議ハ宣言ヲ以テ

締盟國ハ外包硬固ナル彈丸ニシテ其外包中心ノ全部ヲ外包セス若ハ其ノ外包ニ截割ヲ施シタルモノノ如キ人體内ニ入りテ容易ニ開展シ又ハ扁平ト爲ルヘキ彈丸ノ使用ヲ各自ニ禁止ス

ト規定シ更ニ他ノ宣言ヲ以テ
締盟國ハ輕氣球上ヨリ又ハ之ニ類似シタル新ナル方法ニ依リ投射物及爆發物ヲ投下スルコトヲ五箇年間禁止スルコトヲ約ス
ト規定アリ此等ノ宣言ハ單ニ締盟國二十六箇國間ノ條約ニ止ルノミナラス其締盟國間ノ戰爭ニ於テノミ之ヲ遵守スヘキコトト爲シタルニ過キヌシテ野蠻人ニ對スルカ又ハ締盟國以外ノ國ニ對スル戰爭ニ於テハ締盟國ト雖モ之ヲ遵守スヘキ義務ナシト雖モ其規定ハ學理上間然スヘキ所ナキヲ以テ遠カラシ

テ之ヲ國際公法上ノ法則ト爲ルニ至ルヘキカ如シ要スルニ現今兵器彈丸ノ使用ニ付キ適法ト否トノ岐ルルハ其破壞力ノ大小ニ非ヌシテ敵國ノ抵抗力ヲ減殺スル程度ニ比シ其與フル苦痛ノ多小ニ由ルモノナルカ故ニ例ヘハ水雷ノ如キハ一撃ノ下ニ軍艦全體ヲ沈没セシムヘキ有力ノ兵器ナリト雖モ其使用ハ正當ナルニ反シ彈丸ニ硫酸ヲ附著スルカ如キハ斯法上大ナル犯則ナリトス
第四 掠奪及荒壞 昔時ノ戰爭ニ於テハ敵國領土及人民ニ對シテ無制限ナル掠奪ヲ行ヒ其土地ヲ荒壞ニ歸セシメタリシコトナリシカ現今ハ全ク之ニ反シ交戰者ハ敵地ニ侵入スルニ當リテモ其地ニ在ル住民ノ財産及ヒ其商工業等ヲ却テ保護スヘキ責任ヲ有スルコトト爲レリ然レトモ荒壞ハ今日ト雖モ戰爭ニ於テ絕對的ニ禁止セラレタルニ非ヌシテ戰爭ノ進行中場合ニ依リ已ムヲ得サルトキハ之ヲ行ヒ得ヘク「グロシニス」ハ交戰者ニ於テ敵國ヲシテ其要求ヲ容ルルニ至ラシムヘキ小時間ノ荒壞ハ之ヲ行ヒ得ヘントシ「ヴァナル」ハ敵軍ヲ防衛シ若クハ野蠻人ヲ懲戒スル爲メニ荒壞ヲ行フハ禁スル所ニ非ヌト論セリ然レトモ今日ニ於テハ戰爭ニ於テ敵國財産ノ破壞ヲ行ヒ得ヘキ場合ト決シテ之ヲ

行フヘカラサル場合並ニ事情ニ因リテハ之ヲ行ヒ得ヘキモノトノ三者ヲ區別
 スルノ必要アリテ敵國私有財産ニ對シテ破壊ヲ行ヒ得ヘキ場合ハ例ヘハ交戰
 者ニ於テ自己防禦ノ場所ヲ堅固ニシ若クハ敵軍ヲ攻撃又ハ自國軍ノ防禦ヲ容
 易ニスルカ爲メ軍隊ノ進退ヲ自由ト爲スカ如キ作戰上ニ必要アルトキニ限リ
 常ニ破壊ヲ行フヘカラサルモノトス例ヘハ寺院又ハ公ノ建築物ニシテ敵軍ニ
 使用セラレ居ラサルモノ若クハ使用セラレヘキ地位ニ在ラサル場合ノ如キ作
 戰上ニ何タル關係ナキ破壊トス而シテ軍隊ノ生存ニ必要ニシテ其亡滅又ハ降
 服ヲ避クルニ已ムヲ得サル破壊ハ其財産ノ種類如何ヲ問ハス之ヲ行ヒテ妨ナ
 クシテ陸戰ノ法規條約第二十三條ニ於テモ

戰爭ノ必要上萬已ムヲ得サルノ外ハ敵ノ財産ヲ破壊シ又ハ押收スルコト
 ヲ禁スルノ規定アリ

茲ニ注意スヘキハ千八百十三年佛國軍ノ進撃ニ際シテ露國カ莫斯科古府ヲ燒燬
 シ和蘭國ニ屬第十七世紀第十八世紀ニ於テ佛國軍又ハ西班牙軍ヲ防禦スル爲
 メ自ラ水門ヲ開キテ海水ヲ國內ニ横溢セシメタルカ如キ交戰者カ其自國財産

ニ對スル破壊ハ各國ノ自由行爲ニ屬シ決シテ國際公法ニ於テ之ヲ禁スルモノ
 ニ非ス隨テ敵國財産ニ對スル破壊ト自國財産ニ對スル破壊トノ間ニハ大ナル
 區別カ斯法上ニ存在シ敵國財産ニ對シテハバブルセル宣言第十五條乃至第十八
 條ニ之ヲ規定シ陸戰ノ法規慣例條約第二十五條ニ於テ

防守セサル市町村村落住宅又ハ建物ヲ攻撃又ハ砲撃スルヲ禁ス
 ト規定シ又第二十六條ニ

攻撃軍隊ノ指揮官ハ強襲ノ場合ノ外砲撃ヲ始ムル前ニ其ノ旨ヲ官廳ニ通告
 スル爲凡ソ其ノ權内ニ屬スル總テノ手段ヲ盡スヘキモノトス

ト規定シ第二十七條ニ於テハ
 攻圍及砲撃ニ於テハ宗教技藝學術及慈善ノ爲設ケラレタル建物病院並病者
 傷者收容所ハ其ノ軍事上ノ目的ニ供セラレザルニ於テハ成ルヘク之ニ害ヲ
 加ヘザル爲必要ノ手段ヲ施スヘシ

被圍者ハ敵ノ攻圍者ニ通知シタル看易キ特別ノ徽章ヲ以テ此等ノ建物又ハ
 收容所ヲ表示スルノ義務アリ

國際公法(戰時) 交戰關係ノ法則 戰時方法ニ關スル法則 敵人ニ對スル加害ノ程度

トシ第二十八條ニ於テハ

突撃ヲ以テ攻撃シタル市府又ハ其ノ他ノ地域ト雖掠奪ヲ行フコトヲ禁スト規定セリ

第五 防守セサル場所ノ攻撃又ハ砲撃 戰闘ノ目的ハ敵國ノ戰闘力ヲ滅殺スルニ在ルカ故ニ自國軍隊ニ敵抗スルノ能力ナキカ又ハ兵器ヲ採リテ抵抗ヲ爲ササル市町村住宅又ハ建物ヲ攻撃又ハ砲撃スルノ必要ナキニ依リ斯ル攻撃又ハ砲撃ヲ現行法上禁止スルコトハ前記ノ如ク陸戰ノ法規慣例條約第二十五條ニ規定スル所ナリ殊ニ近世ノ大砲ハ非常ノ損害ヲ惹起スルモノナルカ故ニ其砲撃ハ最モ慎ムヘク敵國軍艦又ハ戰闘員ニ對シテ激烈ナル砲撃ヲ加フルハ其戰闘力ヲ削ク所以ニシテ正當ナレトモ兵力防禦ナキ場所ヲ合圍シ又ハ兵力ヲ以テ攻撃シ或ハ砲撃スルニ於テハ戰爭ノ目的ニ必要ナキ殺傷ヲ非戰闘員タル住民ニ加ヘ必要ナル財產ノ大ナル破壊ヲ其私有財產ニ蒙ラシムルニ過キス然レトモ兵力上ノ防備アル市府例ヘハ現今旅順ノ如キ地點ハ之ヲ正當ニ攻撃又ハ砲撃シ得ヘク之ヲ攻陷スルハ敵國ノ戰闘力ヲ削キテ戰爭ノ目的ヲ達スル

ニ必要ナルヲ以テナリ又斯ル場所ヲ攻陷セントスルニ付テハ必スシモ軍隊ヲ之ニ侵入セシムルカ又ハ之ヲ砲撃スルニ限ラスシテ軍路上ノ必要アルニ於テハ單ニ合圍シテ其糧食ヲ絶テ若クハ領水ヲ涸渴シ飢餓ニ依リテ之ヲ攻撃シ得ヘク普佛戰爭中獨逸軍隊カ巴里城ヲ合圍シタルハ主トシテ此方法ニ依リタルモノトス茲ニ所謂ル防守セル場所等ヲ攻撃砲撃シ得ヘシト云フニ付キ防守ノ有無ハ必スシモ旅順ノ如キ砲臺アル場所ヲ意味スルニ限ラス縱令城壁ナク砲臺ナキ場所ト雖モ戰闘又ハ巡洋ノ艦船カ入泊シ居ル港内若クハ陸軍兵士其他戰闘員ノ兵力抵抗ヲ爲シ居ルカ又ハ斯ル抵抗ヲ爲シ得ル場所ハ之ヲ攻撃若クハ砲撃シテ妨ナク之ニ反シテ縱令城壁アリ砲臺ノ設備アル場所ト雖モ其場所ノ戰闘員若クハ非戰闘員カ兵力抵抗ヲ爲ササルトキハ殊更ニ之ニ攻撃若クハ砲撃ノ必要ナキカ故ニ濫ニ其攻撃砲撃ヲ加フルコト能ハス

加之前述ノ區別ニ依リ交戰者カ砲撃ヲ加ヘ得ヘキ場所ニ對シテモ其地域内ニ在ル宗教技藝學術及慈善ノ爲メ設備セラレタル建物病院及病者傷者ノ收容所ノ如キ人類ノ文明ヲ幫助スルノ用ヲ爲ス建物ハ成ルヘク之ニ加害ヲ爲スコト

ヲ避クヘキ義務ヲ有シ又被圍者ニ於テモ斯ル建物ニ付キ其被害ヲ免カサルノ必要及攻撃軍隊ヲシテ其義務ヲ盡サシムルコトヲ助ケルカ爲メ豫メ攻撃軍ニ通知シ置キタル看易キ一定ノ徽章ヲ其建物ニ表示スヘク旗章其他ヲ以テ斯ル表示ヲ爲シ置クニ非サレハ之ニ對スル敵軍ノ加害ヲ咎ムルコト能ハス但シ一般ニ攻撃又ハ砲撃ヲ免カルヘキ建物ニ於テモ之ニ軍隊ノ屯在スルカ又ハ赤十字條約ニ基キタル中立事業ヲ除クノ外軍隊ノ兵力ヲ補給ノ場所トシテ之ヲ使用シ居ルトキハ縱令中立ノ徽章ヲ表示スルモ欺罔的行爲ナルカ故ニ不法ニ屬シ其表示ノ爲メ砲撃又ハ攻撃ヲ免カルヘキモノニ非ス

防守セサル海岸ヲ海軍ノ砲撃ニ付テモ陸戰ト其法理ヲ同一ニスルカ故ニ過日浦鹽ニ在ル露國艦隊カ羽後國酒田港ヲ砲撃ノ噂アリタレトモ事實無根ナリシハ戰爭法上固ヨリ然ルヘキ所ニシテ決シテ其砲撃ヲ許スヘカラサルモノトス然レトモ交戰者ハ敵國ノ防守セサル港ニ對シテ徵發取立金ヲ課シ得ヘキヤ否ヤハ問題ナリト雖モ陸戰ニ於テ防守セサル場所ヲ占領シテ徵發取立金ヲ賦課シ得ルト同シク海軍ニ於テモ若シ爲シ得ヘクタンハ敵國ノ防守ナキ港ニ對シテ

徵發取立金ハ賦課シ得ヘキカ如シ終ニ注意スヘキハ陸戰ノ法規慣例條約第二十六條ニ於テ攻撃軍隊ノ指揮官ハ砲撃ヲ始ムル前ニ其場所ヲ砲撃スル旨ヲ其地ノ官廳ニ通告スヘキコトト爲シタルハ決シテ如何ナル場合ニ於テモ斯ル豫告ヲ爲スヘキ義務アルニ非ス畢竟其豫告ヲ爲スハ同地ニ於ケル非戰人員ヲシテ砲撃前無事ニ避難セシムルニ在レトモ苟クモ敵國ノ防守アル場所ヲ攻撃スルニ先テ斯ル豫告ハ軍略上自國ノ不利益ニシテ爲スヘカラサルコトナリ又其攻撃ヲ行フニ當リ戰闘ノ進行上之ヲ爲リントスルモ其追ナキコトアリテ其豫告ヲ爲スコトハ獎勵スヘキ行爲ナルニ拘ハラズ之ヲ交戰者ノ義務ト爲スコト能ハサルカ故ニ不意ニ攻撃スルカ如キ強襲ノ場合ヲ同條ニ於テ除外シタルノミナラス然ラサル場合ニ於テモ指揮官ノ權内ニ於テ之ヲ爲シテ支障ナシト認ムル範圍ヲ超エサル程度ニ於テ其豫告ヲ爲スコトヲ努ムヘキニ過キス

第六 助命セサル宣言 第十七世紀以後ヨリシテ戰勝軍ハ戰敗者ニ對シ其生命ヲ救助スルノ義務アルモノト認メラルルニ至リタルニ拘ハラズ小ナル城壘ニ據リ到底對抗スヘカラサル大軍ニ向ヒテ頑固ナル抵抗ヲ爲シテ以テ其進軍

ヲ妨ケタルトキハ其城中ニ在リテ防守シタル者ノ生命ハ救助スヘカラスト看
 做サレタル古來ノ法則ハ「ナポレオン」戰爭ノ當時ニ至ルマテ一般ニ是認セラレ
 來リタルカ如シ今其法則ノ理由トシタル所ヲ見ルニ斯ル抵抗ハ防守者ノ本國
 ニ益ナクシテ徒ラニ敵軍ニ對シテ無益ノ殺傷ヲ繼續スルニ止ルカ故ニ之ヲ嚴
 罰スルニ在リトス然ルニ世ノ進歩ト共ニ不完全ナル城壘ヲ堅ク守リタルノ故
 ヲ以テ其生命ヲ救助セサルノ行爲ハ人情ニ反スルモノナルト同時ニ歴史ニ就
 テ觀ルモ小軍ヲ以テ城壘ヲ固守スルハ必スシモ無益ナル殺傷ヲ繼續スルニ限
 ラスシテ之カ爲メニ國家ノ運命ヲ挽回シタルコト尠カラズ隨テ「ヴァテル」ハ此法
 則ヲ排斥シ如何ナル場合ヲ問ハス兵器ヲ捨テタル敵人ハ他ニ犯罪アル者ヲ除
 クノ外殺戮スヘカラスト論シ現今ニ於テハ降服スルモ其生命ヲ助ケサルヘキ
 宣言ヲ敵軍ニ對シテ爲スハ不法ト看做サルコトト爲リ「ブルッセル」宣言並ニ陸
 戰ノ法規慣例條約第二十三條ニ於テモ

兵器ヲ捨テ又ハ自衛ノ手段盡キテ降ヲ乞ヘル敵兵ヲ殺傷スルコト
 助命セサルノ宣言ヲ爲スコト

トヲ嚴禁セリ(國際公法)又ハ「海軍」ノ條ニ於テモ「海軍」ノ條ニ於テモ
 然レトモ玆ニ所謂助命ノ恩典ヲ拒ムヘカラストスルハ如何ナル場合ニ於テモ
 敵國戰闘員ノ生命ヲ救助スヘシト云フニ非スシテ自國軍隊ノ事情ニ於テ之ヲ
 救助スルトキハ自國軍隊ニ來スヘキ危險アリテ其危險ハ急遽必然且至大ニシ
 テ他ニ之ニ代フルノ方法ナク又他ノ手段ヲ擇フノ暇ナキ場合ニ於テハ自衛上
 之ヲ殺傷シ得ヘキ場合アルコトハ既ニ述ヘタル所ナリ隨テ助命セサルノ宣言
 ヲ禁スルハ斯ル非常ノ場合及ヒ報仇ニ出ツル場合ハ自ラ例外ニ屬シ豫メ一般
 的ニ敵人ヲ助命セサルノ宣言ヲ爲スヘカラスト云フニ過キス

前述ノ六種ノ方法ハ戰國ノ方法トシテ絕對的ニ禁止スル所ナレトモ詐略ヲ用
 フルト間諜ヲ使用スルトハ決シテ禁スル所ニ非ス左ニ之ヲ分說セン

第七 詐略 友誼國間ニ於テ一舉ニ動五ニ誠實信義ヲ以テ交際スヘク之ヲ缺
 クトキハ友誼ヲ保持シ得ヘカラサルカ故ニ平時國際公法ニ於テハ詐欺詐術ヲ
 絕對ニ禁スト雖モ戰時ニ於テハ互ニ自國ノ防衛ト戰爭ノ成效ヲ期スルノ必要
 ニ基キ敵軍ノ缺點ト不幸トヲ利用スルヲ已ムヲ得サル事情アルカ故ニ戰國方

法ニ詐略ヲ用ズルハ決シテ禁ズル所ニ非ズ陸戰ノ法規慣例條約第二十四條ニ於テモ禁ズルヲ明ニ示シテ之ヲ禁ズル所ニ非ズ陸戰ノ法規慣例條約第二十四條ニ奇計並敵情地形探知ヲ爲必要ナル手段ノ行使ハ適法ト看做スルヲ規定セリ此故ニ戰爭ニ於テ敵軍ヲ詐リテ其發砲ノ方向ヲ誤ラシメ其他其攻撃ヲ無効ナルニ歸セシメ又ハ敵軍ヲ詐リ誘ヒ不意ニ攻撃シテ進退ヲ失ハシメ之ヲ殺傷又ハ降服セシムル如キハ禁ズル所ニ非ズ然レトモ戰爭法上ノ慣例トシテ特種ノ行爲又ハ徵號ハ特定ノ意義ヲ有シ戰闘中兩軍ノ交戰交通若クハ協議ニ必要ノモノアリ列國ノ條約ヲ以テ一定ノ人員又ハ物件ヲ人類一般ノ爲メ保護スルコトアリ軍隊軍使旗又ハ赤十字旗等ノ如キ是ナリ然ルニ此等ノ行爲ヲ裝ヒ又ハ徵號ヲ用ヒテ敵軍ヲ欺クハ嚴禁スル所ニシテ軍隊旗又ハ休戰旗ヲ濫用スルハ間諜ト看做サレ病院若クハ其附屬員ニシテ或ハ赤十字旗ヲ軍隊ノ輸送兵器彈藥ヲ運搬ニ用ヒテ其攻撃ヲ免レントシ或ハ之ヲ病院綑帶所以外ノ建築物ニ濫用シ又ハ赤十字臂章ヲ病者負傷者ノ救護ニ從事セラル者ニ於テ携帶スル如キハ國際公法又ハ條約ノ違反ナル故ニ犯罪トシテ嚴ニ刑罰セラ

ルヘキモノトスルハ決シテ禁ズル所ニ非ズ陸戰ノ法規慣例條約第二十四條ニ於テモ禁ズルヲ明ニ示シテ之ヲ禁ズル所ニ非ズ陸戰ノ法規慣例條約第二十四條ニ奇計並敵情地形探知ヲ爲必要ナル手段ノ行使ハ適法ト看做スルヲ規定セリ此故ニ戰爭ニ於テ敵軍ヲ詐リテ其發砲ノ方向ヲ誤ラシメ其他其攻撃ヲ無効ナルニ歸セシメ又ハ敵軍ヲ詐リ誘ヒ不意ニ攻撃シテ進退ヲ失ハシメ之ヲ殺傷又ハ降服セシムル如キハ禁ズル所ニ非ズ然レトモ戰爭法上ノ慣例トシテ特種ノ行爲又ハ徵號ハ特定ノ意義ヲ有シ戰闘中兩軍ノ交戰交通若クハ協議ニ必要ノモノアリ列國ノ條約ヲ以テ一定ノ人員又ハ物件ヲ人類一般ノ爲メ保護スルコトアリ軍隊軍使旗又ハ赤十字旗等ノ如キ是ナリ然ルニ此等ノ行爲ヲ裝ヒ又ハ徵號ヲ用ヒテ敵軍ヲ欺クハ嚴禁スル所ニシテ軍隊旗又ハ休戰旗ヲ濫用スルハ間諜ト看做サレ病院若クハ其附屬員ニシテ或ハ赤十字旗ヲ軍隊ノ輸送兵器彈藥ヲ運搬ニ用ヒテ其攻撃ヲ免レントシ或ハ之ヲ病院綑帶所以外ノ建築物ニ濫用シ又ハ赤十字臂章ヲ病者負傷者ノ救護ニ從事セラル者ニ於テ携帶スル如キハ國際公法又ハ條約ノ違反ナル故ニ犯罪トシテ嚴ニ刑罰セラ

第八、間諜 間諜トハテメル宣言第十九條ニ定義セラルル如ク敵軍ニ通報スルノ意思ヲ以テ交戰者ノ作戦地内ニ於テ秘密ニ行動シ若クハ虛妄ノ口實ヲ構ヘテ各種ノ情報ヲ收集シ若クハ聚集セントスル行爲ヲ意味スルモノトス隨テ偵察又ハ斥候ノ如ク戰爭ニ行ハルル普通方法トシテ敵情ヲ探知スルハ間諜ニ非ズ此故ニ軍服ヲ著シ軍人タルコトヲ隱スコトナクシテ敵軍ノ作戦地帯ニ入りタル者又ハ軍人ト否トヲ問ハズ敵軍ニ信書ヲ傳送スル任務ヲ公然執行スル者又ハ自國軍隊間ノ使者ニシテ誤リテ敵軍ニ入りタル者等ハ間諜ト看做スコト能ハズ總テ軍隊ニ於テ間諜ヲ使用スルノ利益ハ作戦上大ナル利益アルヲ以テ古來名將ハ之ヲ使用シタルコト尠カラズ軍隊ニ於テ間諜ヲ正當ニ使用シ得ヘキヤ否ヤハ議論アリタル所ニシテ「ヴァテル」ノ說ニ於テハ間諜ハ正當ニ之ヲ死刑ニ處スヘク依リテ以テ間諜ヨリ生スル危害ヲ防クヲ必要トシ且間諜ノ任務ハ詐欺的ナルヲ以テ名譽ヲ重スル者ハ自ラ之ヲ承諾スヘキモノニ非ズ又交戰國ノ君主モ特別ノ場合ニ際シ避テヘカヲサルニ非サレハ其人民ニ對シテ間諜

ト爲ルコトヲ請求スルコト能ハスト説キタレトモ今日ニ於テハ交戰者カ間諜ヲ使用スルハ國際公法上不法ニ非ナルコトハ一般ニ認メラルベシ至レバ歐洲ニ於テハ間諜ハ名譽アル任務ト看做サレ居ラスシテ古來一般ニ賤マレタルモノナレトモ間諜ニ二種アリテ本國軍隊ノ行動ヲ裏切シテ其作戰計畫等ヲ敵國ニ通報スルハ固ヨリ憎ムヘク卑ムヘキ行為ナレトモ國際公法ノ法則トシテハ交戰者ニ於テ其僞人カ敵國人ト自國人又ハ中立國人ナルトヲ問ハス間諜ノ任務ヲ務ムル者ハ之ヲ利用シ又ハ使用シ得ヘク又自國人ノ危險ヲ冒シ生命ヲ賭シテ間諜ト爲リ自國軍隊ニ大ナル便益ヲ與フヘキ敵軍ノ情報ヲ竊ニ探知スルバ卑ムヘクシラサル行為ナルノミナラス却テ名譽アル勇敢ノ行為ト爲スヘクナボレオン第一世カ西班牙國ヲ侵襲シタルニ際シ敵國ノ多數ノ間諜カ佛國ニ入り居リタルハ以テ西班牙國ノ亡滅ヲ救ヒ歴史家モ其間諜ノ勇敢ト才徳トヲ賞賛セリ隨テ間諜カ敵軍ノ爲メニ捕ヘラルルトキハアルセル宣言ニモ規定セラル如ク軍法會議ニ於テ死刑ニ處セラルヘシト雖モ國際公法上ノ犯罪ニ非ス單ニ敵國ノ之ヲ捕ヘタル場合ニ於テノミ敵國カ之ヲ犯罪トシテ刑罰シ得ルニ止

マリ普通間諜ハ本國軍隊司令官ノ命令ニ出テタルト否トヲ問ハス其任務ニ従事スル者ハ絞殺又ハ銃殺セラルルモノトス然レトモ其行為カ果シテ間諜タルト否トハ慎重ニ審査セサルニ於テハ弊害アリテ刑罰ニ處スヘカラサル者ヲモ死刑ニ付セララルノ虞アルカ故ニ必ス先ツ之ヲ裁判シタル後ニ於テ刑罰ヲ行フヘキコトヲ交戰國ノ義務ト爲シ陸戰ノ法規慣例條約第三十條ニ於テ現行中ニ捕ヘラレタル間諜ハ先ツ裁判ニ付シタル上ニ非サレハ之ヲ罰スルコトヲ得スト規定セリ加之間諜ハ國際公法上ノ犯罪ニ非サルヲ以テ斯ル刑罰ニ付セララルニハ必スヤ現行中ニ捕ヘラレタル場合ニ限ル所以ニシテ其間諜カ一旦其本國軍隊ニ復歸シタル後ニ至リ敵ノ爲メニ捕ヘラルルコトアルモ俘虜ノ待遇ヲ受クヘク其前ニ於テ同人家間諜ノ行為ヲ爲シタルノ故ヲ以テ如何ナル刑罰ヲモ受クルコトナシ

戰爭中輕氣球ヲ以テ敵軍ノ情況ヲ探知スルコトハ千七百九十四年佛國カ之ヲ用ヒ千八百十二年露國カ之ヲ用ヒテヨリ近來ノ戰爭ニ於テハ盛ニ使用セラルルニ至リ千八百七十年普佛戰爭中巴里包圍中佛軍ニ於テハ六十四箇ノ輕氣球

ヲ用ヒテ各邦ト聯絡ヲ謀リ「ガンベッタ」之ニ乗シテ包圍ヲ出テ地方ニ於テ義勇兵ヲ募集セリ當時英國人其他ノ中立國人モ輕氣球ニ乘シ獨逸國ニ捕ヘラレタル者アリテ獨逸國ハ許可ナクシテ自國軍隊ノ場所ヲ輕氣球ニテ通過シタル者ハ何國人タルヲ問ハス自國軍隊ノ事情ヲ敵軍ニ通報スルノ嫌疑ニテ軍法會議ニ付シ間諜トシテ罰セント試ミ軍人カ軍人タルノ身分ヲ隱蔽スルコトナクシテ輕氣球ニ乘シテ敵情ヲ探知スルハ間諜行爲ナリヤ否ヤハ戰時ノ問題ト爲リタリシカ「アルセル」宣言第二十二條及ヒ陸戰ノ法規慣例條約第二十九條ニ於テ此點ヲ明カニシ信書ヲ傳達スル爲メ又ハ軍隊間若クハ軍隊ト地方トノ間ニ聯絡ヲ通スル爲メ輕氣球ニテ派遣セラレタル者ハ間諜ト看做スヘカラサルコトヲ規定セリ

第三節 非敵意ノ交通

第一款 休戰及ヒ停戰

休戰ナル名稱ハ之ヲ廣義ニ言ヘハ交戰者雙方ノ合意ヲ以テ戰闘ヲ中止スルモ

ノヲ總稱シ其戰闘ヲ定ムル區域ノ大小又其期間ノ長短ヲ問ハザレトモ之ヲ狹義ニ解釋スレハ其戰闘中止ノ區域ノ小ニシテ期間ノ短キモノヲ停戰ト稱シ其區域ノ大ニシテ政治上ノ意味アルモノヲ休戰ト名ク凡テ休戰又ハ停戰ニ於テ戰闘行爲ヲ中止スルハ交戰國雙方ノ約定ニ因ルヲ要シ其中止ノ範圍ハ軍隊全部ニ涉リ若クハ一部ニ限ルコトアリ全部ニ涉ルノ休戰ハ交戰國間ノ戰闘ヲ一時全ク中止シ其一部ニ限ルモノハ單ニ特定ノ地域内ニ於テ軍隊中特定ノ部隊間ニ戰闘ヲ中止スルモノトス就中其戰闘中止ノ軍隊一部ニ限リ軍隊雙方ノ便宜ニ因リ互ニ負傷者ノ運搬死亡者ノ埋葬俘虜ノ交換又ハ軍隊間ノ協議等ノ爲メ小時間一定ノ場所ノ戰闘ヲ中止スルヲ停戰ト謂ヒ之ニ反シテ休戰ハ例ヘハ媾和條約ノ締結軍隊ノ降服其他政治上ニ關係ヲ有シ戰闘中止ノ區域大ニシテ其日時ノ長キモノヲ謂フ而シテ全軍ニ涉ルノ休戰ハ國家ノ主權ノミ之ヲ行ヒ兩國政府ヨリ特ニ命セラレタル者ニ於テ之ヲ協定スヘク陸海軍ノ司令長官ト雖モ其普通ノ職權内ニテハ之ヲ行フコト能ハス隨テ陸海軍司令官カ本國主權者ヨリ特別ノ命令ヲ受ケスシテ斯ル約定ヲ爲シタルトキハ主權者ノ追認アル

トヲ必要トシ之ニ反シテ一地域ヲ限リ又ハ軍隊一部ニ渉ルノ停戦ハ兩軍指揮官ノ間ニ於ケル協議ニ因リテ自由ニ之ヲ行ヒ得ヘク其效力ハ單ニ其指揮ノ下ニ在ル兵士ヲミテ拘束スルニ過キスシテ其指揮ニ屬セザル他ノ部隊ヲ拘束セザルカ故ニ他ノ軍隊ノ行動ニ付テハ何タル影響ヲ及ホスコトナシ

停戦並ニ休戦ハ其ニ其約定ニ交戦國ノ批准ヲ要セスシテ其合意アルキ直チニ效力ヲ有ス又總テ戰闘ノ中止ヲ爲スニ當リテハ其中止間ニ於ケル兩軍ノ行爲其他ノ關係及ヒ戰闘ノ中止ヲ實行シ又ハ再ヒ之ヲ開始スル時期等ヲ明カニ協定シ置クノ必要アリ又休戦ノ場合ニ於テ其命令ヲ各軍ニ傳達スルニハ時日ヲ要スルコトアルヲ以テ休戦開始ノ時期モ自ラ軍隊ノ位置ニ應シ其各部分ニ付キ異ナリタル時日ヲ規定シ得ヘク何レノ場合ニ於テモ交戦者ハ時期ヲ失ハス休戦ヲ關係官衙及ヒ軍隊ニ公然通知ヲ爲スノ義務ヲ有ス又休戦若クハ停戦ニ於テ其終了ニ關スル期限ヲ豫メ定メ置キタルモノハ其期限ノ滿了ト共ニ再ヒ戰闘ヲ開始スルコトヲ得ヘシト雖モ終了期ヲ明定シ置カサルトキハ交戦者一方ノ任意ヲ以テ何時ニテモ再ヒ戰闘ヲ始メ得ヘク此場合ニハ戰爭ヲ開クノ通

國制度ノ如ク公債ヲ主タル引換準備ト爲スハ善良ナル制度ト稱スルヲ得サルナリ何トナレハ引換請求續續相踵クトキハ公債ヲ賣却レテ請求ニ應スルコト甚タ難ケレハナリ之ニ反シテ相當ノ正貨準備ヲ置キ其以外ハ辨償確實ナル短期ノ債權殊ニ割引手形ヲ以テ引換準備ニ供スルヲ普通ニ銀行の準備ト名クヘテ之ヲ稱揚シテ曰ク理論上並ニ實際上正當ナル準備法トシテ此方法ニ優ルモノナシト歐洲大陸諸國ノ中央銀行ハ其間ニ多少ノ差異アリト雖モ實際此制度ヲ採ルモノ多シトス我國ニ於テモ手形ノ流通真正ノ發達ヲ爲スニ至ラハ日本銀行ノ保證準備ハ主トシテ割引手形ヲ用ヒサルヘカラサルナリ

以上述フルカ如ク引換準備ノ制度成立スト雖モ更ニ之カ安全ヲ保障スルカ爲メニ銀行ノ業務ヲ制限スルモノ多シトス例ヘハ株式ノ賣買ノ如キハ巨利ヲ博スルコトアルト共ニ又損失ヲ招ク虞多キカ故ニ發券銀行ノ行フヘキ業務ニ非タルナリ又不動産ヲ抵當トシテ長期ノ貸付ヲ爲スハ一見甚タ確實ナルカ如シト雖モ是レ亦發券銀行ノ本質ニ反スルモノタリ何トナレハ銀行券ハ發行ノ日ヨリ引換ノ請求ニ應セザルヲ得サルニ反シ貸付ハ期限ニ至リテ始メテ回收ス

ルコトヲ得ルモノナレハナリ而シテ銀行カ其抵當不動産ヲ所有セザルヲ得タルカ如キ場合ニ遭遇セハ資金ノ固定ヲ來スヤ必セリ之ニ反シテ短期確實ナル手形ノ割引ヲ行フニ於テハ資金ノ運轉甚々速ニシテ引換準備ノ伸縮亦容易ナリトス是ヲ以テ諸國ノ中央銀行ハ多クハ法律ヲ以テ業務ヲ制限セラレ我日本銀行條例モ亦第十一條ニ於テ日本銀行ノ行フヘキ業務ヲ規定シ第十二條ニ於テ特ニ行フヘカラサル業務ヲ列舉セリ

其他ノ規定ヲ述ブレハ第一、中央銀行ヲシテ常ニ營業ニ關スル公告ヲ爲サシムルコトヲ要ス蓋シ公衆ヲシテ中央銀行ノ動靜ヲ環視セシムルハ有效ナル一種ノ監督ニシテ且銀行券發行額正貨準備額ノ増減等ハ金融市場ニ至大ノ影響ヲ與フルモノナルカ故ニ世人ヲシテ常ニ其狀況ヲ知ラシメサルヘカラス

第二、銀行券ヲ法貨ト爲スヤ否ヤヲ定メサルヘカラス發券銀行ノ數多キトキハ引換停止ヲ行フモノアルカ故ニ信用薄弱ナル銀行ノ發行セル銀行券ニモ強通カヲ付與スルハ甚々危險ナリトス然レトモ鞏固確實ナル中央銀行ノ發行セルモノニ至リテハ此ノ如キ憂ナキカ故ニ初ヨリ法貨タル效力ヲ與ヘテ其流通ヲ

圓滑ナラシムルニ如カサルナリ

第三、銀行券ノ券面金額ヲ定メサルヘカラス券面金額ノ小ナル銀行券ヲ難スル者ハ曰ク小額ノ銀行券ハ社會ノ下層ニ流通シ而シテ細民ハ銀行ノ信用如何ヲ鑑別スルコト能ハサルカ故ニ不換紙幣ノ如キ弊害ヲ醸スヘシト若シ夫レ發券銀行ノ數多クシテ引換停止ヲ行フ者アルカ如キ場合ニハ論者ノ言實ニ理アリト雖モ中央銀行ノ發行セル銀行券ノミ流通スルニ當リテハ蓋シ杞憂ト謂フヘキナリ又硬貨ノ流通ヲ以テ貨幣制度ノ維持ニ必要ナリトシ爲メニ小額ノ銀行券ヲ禁止センコトヲ主張スル者アリト雖モ一國ニ存在スル貨幣ノ數量ニハ自ラ制限アルモノニシテ硬貨ノ民間ニ流通スルコト盛ナレハ中央銀行ノ正貨準備ハ必ス大ニ減少スルヲ以テ硬貨ノ流通盛ナルモ中央銀行ノ正貨準備額小ナルニ於テハ貨幣制度之カ爲メニ一層鞏固ナリト謂フコトヲ得ナルナリ故ニ銀行券ノ券面金額ハ必スシモ大ナルヲ要セス宜シク其國情ニ照シテ之ヲ定ムヘキナリ

第五章 信用取引及ヒ信用機關

第一節 信用取引ノ意義及ヒ其種類

物品ヲ以テ物品ニ交換シ若クハ貨幣ヲ以テ物品ヲ買入ルルニ於テハ提供ト報酬トハ即時ニ行ハレテ取引ハ直チニ結了ヲ告クルモノトス此種ノ取引ノミ行ハルルトキハ他人ノ有スル物品ヲ得ントスルモ之ニ對シテ交換スヘキ物品若クハ貨幣ヲ現在所有スルニ非サレハ其目的ヲ達スルコトヲ得ス其不便大ナリトス是レ即チ信用取引ノ起ル所以ナリ

信用取引トハ財貨又ハ其他ノ有價物件ノ授受ニ關シ當事者一方ノ行爲ハ現在ニ存シ之ニ對スル他方ノ行爲ハ將來ニ屬スル取引ノ謂ニシテ之ヲ信用取引ト稱スルハ先ツ財貨又ハ其他ノ有價物件ヲ與フル者カ後日必ス其返償ヲ受クルコトヲ信認スルヲ以テナリ而シテ信用ナル語ハ主トシテ此信認ヲ意味スト雖モ信用取引ノ意義ヲ以テ用ヒラルル場合亦少カラサルナリ

信用取引ヲ廣義ニ解スルトキハ貸借ノ如キモノヲモ包含スヘシト雖モ狹義

ノ信用取引ハ所有權ノ移轉ヲ生スルモノニ限リ賣買ノ一部ト所謂消費貸借トフ包含スルモノニシテ本章ニ於テ述ヘントスルハ狹義ノ信用取引ナリトス而シテ賣買ノ一部トハ即チ買主カ直チニ其代金ヲ支拂ハスシテ之ヲ後日ニ約スルモノヲ謂ヒ現今此種ノ取引ハ盛ニ行ハレ次節ニ述フル爲替手形約束手形ハ主トシテ此種ノ取引ニ基因スルモノトス又消費貸借ハ特定物ノ返償ヲ要セサルモノニシテ例ヘハ米一俵ヲ借り而シテ後日同稱ノ米一俵ヲ返償センコトヲ約スルカ如キ是ナリ而シテ貨幣ハ隨意ノ數量ニ於テ借受クルコトヲ得其使用方法ノ意ニ任セ而シテ返償ノ時期來ルトキハ容易ニ之ヲ集ムルコトヲ得ルカ故ニ最も消費貸借ニ適合スルモノニシテ消費貸借ハ主トシテ貨幣ヲ以テ行ハルルナリ然レトモ信用制度發達スルニ從ヒ貨幣貸借モ亦實際貨幣ヲ授受セス小切手等ヲ用フル場合多キニ至ルナリ

信用取引ハ種種ニ區別スルコトヲ得ルモノニシテ其重要ナルモノヲ舉クレハ第一債務者カ債權者ニ自己ノ動産又ハ不動産ヲ提供シテ返償ヲ擔保スルトキハ之ヲ對物信用ト名ケ之ニ反シテ債權者カ債務者ノ性質能力等ヲ信認シテ取

引ヲ爲ストキハ之ヲ對人信用ト稱シ債務者ノ財産、境遇、關係等ヲ信認シタル場合モ亦一種ノ對人信用ナリトス第二、債務者カ信用取引ニ因リテ得タル物件ヲ不生産的ニ使用シ其返償ニ關シテハ別ニ財源ヲ求メサルヘカラサルモノヲ消費信用ト稱シ之ニ反シテ債務者カ農商工業等生産事業ニ必要ナル資金ヲ借入ルル場合ニハ之ヲ生産信用ト名ク第三、信用取引ニ於テ債務者カ國家又ハ其他ノ公共團體ナルトキハ之ヲ公信用ト謂ヒ私人間ノ信用取引ハ之ヲ私信用ト稱スルナリ

第二節 手形

前節ニ述ヘタルカ如ク信用取引ニ於テハ一方ノ提供ト之ニ對スル他方ノ報酬トカ其時ヲ異ニスルモノナルカ故ニ債權者債務者間ノ關係ヲ明カニスル方法ナカルヘカラス是ヲ以テ信用取引ニ關シ種種ノ形式行ハレ就中簡單ナルハ口頭ノ約束ニシテ其次ハ帳簿ノ記入ニ止マルモノトス其他ニ至リテハ證券ノ作成ヲ要シ此等ノ證券ニシテ一定ノ金額ヲ表示シ裏書又ハ引渡ニ依リ他ニ讓渡

シ得ヘキモノヲ信用證券ト稱スルナリ

信用證券ノ主ナルモノハ國家又ハ自治體ノ發行スル公債證券會社ノ發行スル債券銀行券手形等ナリトス本節ニ於テハ手形ニ付テ少シク説明セント欲スルナリ

手形ニ三種アリ爲替手形、約束手形及ヒ小切手是ナリ爲替手形ハ甲ヨリ乙ニ宛テ丙又ハ其指圖人若クハ手形持參人ニ一定ノ金額ヲ支拂フコトヲ要求スル證券ニシテ甲ヲ振出人乙ヲ支拂人丙ヲ受取人ト謂ヒ而シテ丙其手形ヲ乙ニ呈示シテ乙之カ支拂ヲ引受ケタルトキハ乙ヲ引受人ト稱ス爲替手形ニ記名式指圖式ト無記名式トアリ記名式指圖式トハ例ヘハ(丙)又ハ其指圖人(御支拂可被成候)ト記スルヲ謂ヒ無記名式トハ例ヘハ(此手形持參人へ御支拂可被成候)ト記スルヲ謂フ又手形ノ支拂期日即チ満期日ヲ定ムルニ四種アリ即チ(一)確定日拂(二)日附後定期拂(三)覽拂又ハ參著拂(四)一覽後定期拂是ナリ

爲替手形ハ裏書ニ依リテ他人ニ讓渡スコトヲ得ルモノナルカ故ニ支拂期日ノ到著スルマテ數多ノ人ノ間ニ轉轉スルコト稀ナラサルナリ而シテ裏書ニモ記

名式指圖式ト無記名式(白地式)アリ例ヘハ丙カ其手形ヲ丁ニ讓渡サントスルトキ表面ノ金額丁又ハ其指圖人ニ其支拂可被成候也ト書スルカ如キハ是レ記名式指圖式ノ裏書ナリトス然ルニ何等ノ文句ヲモ記載セス單ニ裏書人カ署名ノミヲ爲ストキハ是レ即チ無記名式(白地式)ノ裏書ニシテ此場合ニ於テハ爾後爲替手形ハ引渡ノミニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得ルナリ而シテ手形ノ支拂人滿期日ニ於テ支拂ヲ爲ササルトキハ手形ノ所持人ハ裏書人及ヒ振出人ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

爲替手形ハ元來住所ノ相隔リタル商人間ノ取引ニ用ヒラレタルモノニシテ今日モ國際取引ハ主トシテ爲替手形ニ依リ決算セラルルモノトス故ニ如何ナル場合ニ爲替手形カ作成セサルルカヲ見ルニ例ヘハ東京ノ甲大阪ノ乙ニ一箇月後ニ代金受領ノ約束ヲ以テ千圓ノ物品ヲ賣渡セルニ當リ同期日ニ大阪ニ於テ千圓ノ支拂ヲ要スル丙ノ求ニ應シ丙ヨリ千圓ヲ受取り丙ヲ受取人トセル乙宛ノ爲替手形ヲ作ルカ如キ場合多シトス

約束手形ハ甲ヨリ乙ニ宛テ乙又ハ其指圖人若クハ手形持參人ニ一定ノ金額ヲ

結果ハ頗ル大ナリトス

(一)「アドブシオ」ノ形式「アドブシオ」ニ在リテハ實父ノ權下ニ在ル者ヲシテ養父ノ權下ニ屬セシムルニ在ルヲ以テ原則トシテ讓與スヘカラサルモノト思考サレタル父權ヲ移動セタルヘカラス而シテ此目的ヲ達センカ爲メ法律家ハ間接ナル方法ニ依リ先ツ實父ヲシテ父權ヲ抽棄シ次テ養親ヲシテ之ヲ取得セシメントセシヲ以テ「アドブシオ」ノ形式ヲ分チテ二ト爲シ順次之ヲ履行セシム即チ父權ヲ消失セシメンカ爲メニハ十二銅版法ノ規則ニ依リ男子ニ於テハ三度ノ賣買式、女子及ヒ孫ニ在リテハ一度ノ賣買式ヲ爲ヌヲ要ス此規則ニ基キ實父ハ養父ニ向ヒテ三度此式ヲ行フ第一度第二度ニ於テ養父ハ直チニ子ヲ解放シ子ハ父權ニ歸ルモ第三度ニ及ヒ父權ハ全ク消滅シタルモノトス而シテ養父ハ養子ト共ニ法官ノ前ニ出テ子ノ上ニ於ケル父權ヲ請求ス而シテ法廷ニ於テ其權利ヲ防綱スヘキ被告ノ地位ニ立テ爾實父ハ他ノ主張スル所ヲ抗辯セサルヲ以テ法官ハ養父ノ意ヲ採用シ子ヲ以テ之ニ與フルモノトス

此形式ハ教科時代ニ於テモ仍ホ應用セラレタルカ(ジュステニアン)帝ニ及ヒ此ノ

如キ老朽ノ方法ヲ廢シ實養兩親及ヒ子ヲシテ法官ノ前ニ出頭セシメ雙方ノ意見ヲ法官ノ公正書類ニ證明スルヲ以テ足レトセリ

(二) アドロガシオノ形式 アドロガシオノ最モ嚴格ナル外形ニ付セラレタルハ其政治的及ヒ宗教的ノ性質ヲ具有セシヲ指示スルモノナリ而シテ法律ノ進歩ト共ニ其形式ハ又變遷セリ

(甲) 古昔ニ於テハ(イ)僧侶團體ノ認可(ロ)キュリア法ノ二條件ヲ要ス僧侶ハ養父ノ一定ノ年齢ヲ超越シ將來子ヲ生ムノ望ナキカ其養子ノ目的ハ如何殊ニ幼者ヲ養ヒテ其財産ヲ奪ハントスルノ利慾的計畫ヲ隱藏スルニ非サルカ或ハ之ニ依リ雙方ノ祭祀ヲ失墜シ又ハ家名ヲ辱ムルコトナキカヲ檢査スルモノトス「キュリア」民會ニ於テハ三條ノ質問アリ一ハ養父ニ對シテ他ヲ取り正當子ト爲スヲ欲スルカヲ問ヒ二ハ養子ニ向ヒテ養父カ其身上ニ死生ノ權ヲ得ルニ承諾スルカヲ問ヒ三ハ人民ニ向ヒテ雙方ノ意思ヲ認許スルカヲ問フモノナリ「アドブシオ」ニ於テハ法官ハ單ニ當事者ノ意思ヲ説明スルニ限ルモノナルモ「アドロガシオ」ニ於テハ僧侶及ヒ民會ハ直接ニ其事件ニ干渉スルモノナリ

(乙) 教科時代ノ初ニハ民會ハ既ニ存在セザリシヲ以テ三十人「リタトル」(Litores) (法官ノ前驅トシテ其徽章ヲ持チシ者)及ヒ之カ席長ト爲ル一人ノ法官ヲ以テ民會ニ擬シタリ故ニ實際ニ於テ「アドロガシオ」ヲ決スル者ハ僧侶ナリ

(丙) 帝政ノ末ニ當リ皇帝ハ立法體タリシ民會ニ代リ隨テ「アドロガシオ」ハ皇帝ノ勅令ヲ以テセリ而シテ往時「アドロガシオ」ヲ審査ヲ爲シタル僧侶ハ又法官ニ由リ代置セラレタリ

養子ノ結果

養子ヨリ生スル結果ハ「アドロガシオ」「アドブシオ」ニ別ナク等シク被養者カ其自然ノ親族ニ連結セラルル關係ヲ破リ養者ノ權下ニ徙リテ一方ニ喪失スル所ノモノヲ他方ニ發生セシムルニ在リ而シテ「アドロガシオ」ニ於テハ自權者ヲ以テ他權者ト爲スカ故ニ得ル所ノ權利ハ之ヲ失フ所ニ比シ少數ナリ「アドロガシオ」ニ於テハ被養者ハ固有ノ親族ヨリ出テ宗族(Agnatio)及ヒ宗統(Gentilis)ノ資格ヲ以テ享受スル一切ノ權利ヲ拋棄シ單ニ血族(Cognatio)ノ稱號及ヒ其權利ヲ殘スノミ他方ニ於テハ養者ノ家子タル名ヲ取り其家ニ入り己カ有セシ夫權下ニ在

ル妻及ヒ父權下ニ在ル子ハ皆養者ノ權下ニ移リ被養者カ有セシ一切ノ財産ハ又養者ノ資産ノ一部ト爲リ爾後被養者ハ養者ノ姓氏ヲ取リ其祭祀ヲ奉シ養家ノ親族ニ對シ宗族關係ヲ生シ加之假想シテ其血族ト爲ス「アドブシオ」ヨリ生スル結果ハ略ホ右ニ述ヘタル所ニ同シキモ唯其範圍小ナリトス何トナレハ被養者カ自己ニ有スル子ハ既ニ生レタルト又ハ懷妊中ナルトヲ問ハス被養者ニ隨ヒテ養家ニ移ラスシテ實際ノ親族タル父權者ニ屬ス又他權者ハ資産ヲ有スルコトナキヲ以テ被養者ニ對シテ更ニ金錢上ノ利得ヲ致スコトカシ

「ジユスチニア」帝時代ノ法律ハ稍ヤ上述セル所ニ異ナリ「アドロガシオ」ニ於テハ財産上ノ點ヲ除クノ外仍ホ舊時ノ制ニ從ヒシカ「アドブシオ」ニ於テハ其性質、結果漸次變更シ來リタリ帝以前已ニ「プレトール」法官ハ被養者カ其買家ニ對スル關係ヲ維持シ養子ヨリ生スル不正ナル結果ヲ減少センコトニカメシカ「ジユスチニア」帝ハ同一ノ目的ヲ以テ養者カ尊屬親タルカ他人タルカニ從ヒテ區別ヲ設ケ若シ尊屬親ナルトキハ舊來ノ制ヲ守リ若シ他人ナルトキハ被養者ニ對シ父權ヲ授與セス又親族關係上更ニ變更ヲ來スヲ許サス唯養子ノ唯一ナル結

果ハ養家ノ名ヲ取リ養者カ無遺言死亡ノ時ニ當リ養父ノ相續ヲ以テ養子ニ歸スルモノトセリ

養子ニ必要ナル條件

上述セル如ク養子ニ本然缺クヘカラサル形式ノ外向ホ養子ノ有效ナルニ必須ナル條件アリ此條件ハ或ハ養者ニ存在スルコトヲ要シ或ハ被養者ニ存在セザルヘカラス

一 養親ニ關スル條件

養親ニ關スル條件ニシテ「アドロガシオ」及ヒ「アドブシオ」兩種共ニ之ヲ要求スルモノアリ或ハ一種ノミ之ヲ要求スルモノアリ先ツ兩種共通ノ條件ヨリ述ヘ

(一) 凡ソ養子ヲ爲スノ能力ヲ取得スルニハ父權ヲ實行スルノ能力ヲ要ス 故

ニ奴隸、非公民女子及ヒ他權者ハ養子ヲ爲スコト能ハス然レトモ「チオクレンテア」ニユス「帝」ハ特ニ婦人ニシテ其子ヲ失ヒタル者ハ養子ヲ爲シテ之ヲ正當婚姻ヨリ生レタル者ノ如ク觀察スルコトヲ許セリ

(一) 養子ノ制ハ本來自然ニ摸擬スルモノナルヲ以テ被養者ハ養者ヨリ年少ナルヲ要ス。而シテ此年齡ノ差異ヲ十八年以上ト限リタルハ蓋シ男子ノ實際ニ於ケル成熟年齡ヲ以テ十八年ト假定シタルニ由ルナルヘシ。

以上二箇ノ共通條件ノ外アドロガシオニ特別ナルハ

(一) 養子ハ既ニ子ヲ有スルノ望ナキニ達シタルヲ要ス。此年齡ヲ六十年以上ト爲シタルハ蓋シ法律ハ人ノ養子ノ制ヲ利シ獨身者ニシテ身ヲ終ヘ或ハ又兒子不生産ヲ希圖スルヲ欲セサレハナリ。

(二) 「アドロガシオ」ハ正當婚姻又ハ養子ニ因リ既ニ正當子ヲ有スル者ニ許サス。

二 被養者ニ關スル條件

被養者ハ直チニ父權ノ下ニ立ツヲ以テ父權ノ實行ヲ受クルコト能ハサル者ハ養子ト爲ルコト能ハス例ヘハ奴隸ノ如キ是ナリ其他女子及ヒ幼者 (Impubescentes) 「アドロガシオ」目的ト爲ルヲ得ルモ「アドロガシオ」養子ト爲ルコト能ハス蓋シ「アドロガシオ」ニ於テハ當事者ノ民會ニ出席スルヲ要セルニ女子及ヒ幼者ハ民會ニ列スルヲ許サレザリシカ故ニ「アドロガシオ」形式ヲ實行スルニ由ナケレ

ハナリ然レトモ皇帝ノ勅令ヲ以テ「アドロガシオ」ヲ許セシヨリ女子ハ「アドロガシオ」ニ依リ養子ト爲ルヲ得又幼者ニ對スル妨礙モ「アントニウス」皇帝ノ勅令ニ由リ廢セラレタリ。

第三節 父權ノ消滅

(一) 父權ノ消滅ノ原因ニ二種アリ一ハ同時ニ宗族(Agnatio)關係ヲ破壞スルモノ二ハ此關係ヲ破壞セザルモノ是ナリ。

第一 養子ノ宗族關係ヲ破壞セザル父權消滅ノ原因

(一) 家父ノ死亡 家父ノ死亡ハ其權下ニ在リシ家子ヲ獨立セシメテ自權者ト爲ス然レトモ家父死亡ノ日ヲ以テ其間接權下ニ立チシ者即チ孫ハ從來中介ニ在リシ家子ノ權下ニ屬ス羅馬ニ於テハ曾テ族長制度ヲ認メザリシヲ以テ家父ノ死後其子ハ皆等シク獨立シテ家族權ヲ握リ或ハ兄タリ或ハ弟タルノ故ヲ以テ没ニ其地位ヲ懸隔シ差等ヲ立ツルコトナシ。

(二) 家父ノ市權又ハ自由ノ喪失 家父權ノモノタル元來市民法ノ創設ナレハ

市權ヲ有セタル者又ハ自由狀態ヲ喪失セル者ハ之ヲ享有スルコト能ハサルヤ明カナリ若シ父ニシテ奴隸ト爲ランカ子ハ直チニ家父ト爲ル然レトモ通民法ニ從ヒテ奴隸ト爲サレタル者即チ捕虜ト爲リタル者ニ在リテハ二種ノ解決アリ捕虜ト爲リタル父ハ或ハ脱走シテ羅馬ニ歸ルカ或ハ囚虜ト爲リテ身ヲ終ルカノ結局ヲ出ラス第一ノ場合ニ於テハ歸後公權復取(Restitutio)ニ依リ既往ニ遡リテ父權ヲ回復ス第二ノ場合ニ於テハ子ノ自權者ト爲ルハ父ノ死亡ノ日ヨリ起算スヘキカ其囚虜ト爲リタル日ヨリ起算スヘキカハ羅馬ニ於テ久シク學者間ニ議論ト爲リシカ終ニ敵國ニ於テ死シタル捕虜ハ其囚捕ノ日ヲ以テ死シタルモノト認定セラルルモノナリトノ原則ヲ立テ乙說ヲ以テ規則ト爲シタリ

(三) 古昔ニ於テ子カ或僧位ニ上リタルトキハ之ヲ以テ父權ノ實行ト竝立スヘカラサルモノニシテ父權ヲ解除シタリ例ヘハ「ジュピタール」(Jupiter)神及「ウニス」(Vesta)神ニ奉仕ノ僧是ナリ

第二 子ノ宗族關係ヲ破壞スル父權消滅ノ原因

(一) 父權實行ノ目的タル人格ハ公民又ハ自由人ニ限ルヲ以テ家子ニシテ市權

雜 報

○他人ノ所有物ノ登記 他人ノ所有ニ屬スル不動産ヲ賣買シタル場合ニ於テ買主カ賣主ニ向ヒ裁判上其登記ヲ請求シタルトキハ裁判所ハ賣主ニ對シ其登記ヲ命スヘキカ大審院ハ曰ク「本上告論旨ニ於ケル問題ニ關シテハ既ニ當院ノ判例存スル所ニシテ即チ他人ノ所有ニ屬シタル物件ニ係ルト雖モ當事者間ノ法律關係ニシテ其債務者タル地位ニ立ツ者カ之ヲ買戻シ若クハ受戻シ登記手續ヲ爲スヘキ義務ヲ負フモノナルトキハ其當事者間ノ關係ニ基キ其登記手續ヲ命スルヲ相當ナリト認メ來ル判例ナリト」(大審院明治三十六年才第六百五日第三十七年民事部判決)

○地上權者ノ地代不拂ト不當利得 地上權者カ地代ヲ支拂ハスシテ土地ヲ使用收益シタルトキハ不當利得ヲ爲シタルモノト謂フヘキカ大審院ハ之ヲ肯定シタル原判決(宮城控訴院ヲ破毀シテ曰ク「原院ハ上告人カ本訴ノ土地ニ付キ地上權ヲ有シ且其地上權ハ有償ノモノニシテ其地代ノ額ニ付テハ明約アラサ

ルモ該土地ノ所有者タル被告人ニ對シ幾何カ地代ヲ支拂フヘキ義務ヲ負擔
 スルモノト認定シタルコトハ原判文上明白ナリ果シテ然ラハ原告人カ該土地
 ヲ使用シタルハ正當ノ原因ニ基キタル權利ノ行使ニシテ之カ爲メ利得シタル
 ハ自己ノ享有スル地上權ニ因リテ當然ノ利益ヲ受ケタルモノニ外ナラサレハ
 法律上ノ原因ナクシテ他人ノ財産ニ因リ利益ヲ受ケタルモノト謂フコトヲ得
 ス但原判旨ニ依レハ原告人ハ其義務タル地代ノ支拂ヲ爲サスシテ該土地ヲ使
 用シタルカ故ニ不當ニ利得シテ被告人ニ損失ヲ被ムラシメタルモノナリト
 云フニ在ルカ如シ然レトモ原告人カ地代ノ支拂ヲ爲ササルハ該地上權ノ設定
 行爲其他法律上正當ノ原因ニ基キ發生シタル義務ヲ盡ササルモノタルニ過キ
 ナルヤ原判決ノ事實認定上自ラ明白ニシテ之ヲ以テ法律上ノ原因ナクシテ利
 得シ他人ニ損失ヲ及ホシタルモノト謂フヲ得サレハ斯ノ如キ場合ニ不當利得
 ノ法則ヲ適用ス可キニアラスト(大審院明治三十六年(子)第四百十九號損害金請
 求事件明治三十六年(子)第四百十九號損害金請
 決部判)

○地上權者ノ質貸權 地上權者カ其地上權ヲ質貸スルハ民法第二百六十五

條ニ所謂「土地ヲ使用スル」モノニ非ストノ上告論旨ニ對シ大審院ハ說明シテ曰
 タ「原告人ハ原院ニ於テ被告上告人陳(地上權者)ハ明治二十八年十月三十一日本件ノ
 家屋ヲ他ニ讓渡シ本件ノ地所ニ關係ナキモノト爲リタルカ故ニ地上權ヲ有セ
 ナル旨ヲ論シ本點ニ於テ論スルカ如ク場合ヲ舉ケ詳細ニ論セサリシヨリ原院
 ハ先ツ被告上告人陳カ本件ノ土地ニ對シ山本屋長兵衛ナル者ヨリ本件ノ家屋ヲ
 買受ケタルトキニ地上權ヲ取得シ爾來其權利ヲ有スル旨ヲ説示シ續キテ汎
 ク地上權ニ質貸借權ヲ設定スルヲ得可キコトヲ判斷シタレハ之ヲ以テ原院ニ
 於ケル爭ニ對シテハ相當ノ判斷ヲ爲シタルモノト云フコトヲ得可シ而シテ地
 上權者ハ單ニ地上權ノ目的タル地上ニ有スル建物ヲ他ニ質貸スルコトヲ得可
 キノミナラス他人ノ土地使用ノ目的ヲ變更スルコトナキニ於テハ敢テ自己ニ
 於テ工作物又ハ竹木ヲ所有セサルトモ他人ニ其土地ヲ質貸シ他人ニ於テ其地
 上ニ工作物ヲ設ケ又ハ竹木ヲ植栽シテ其土地ノ使用及ヒ收益ヲ爲サシムルコ
 トハ法律ノ禁止シタル所ニ非サルモノニシテ此ノ如キハ地上權者カ工作物又
 ハ竹木ヲ所有スル爲メ他人ノ土地ヲ使用スル權利ノ範圍ニ屬スルモノト云フ

コトヲ得可ケルハ地上權ヲ貸借ノ目的ト爲スコトニ關シ況ク以上二箇ノ場合ヲ包含セシメタル原院ノ説明ハ相當ニシテ上告人所論ノ如ク原判決ハ地上權ノ性質ヲ誤解シタルモノニ非ス(ト)上權假登記消滅事件明治三十六年九月十九日第二十三日第一二)

○舊法ノ下ニ於ケル保證債務 主タル債務者ニ多少ノ財産アルニ於テハ債權者ハ先ツ之ニ依リテ辨濟ヲ受ケサルヘカラサルカ大審院ハ舊法ノ適用トシテ説明シテ曰ク「明治八年第百二號第一條ニ本人身代限濟方申付候上不足相立候節ハ證人ヘ濟方申渡シ云云トアルハ主タル債務者ノ資力ヲ盡シ尙辨濟スルコト能ハサルトキハ其不足額ニ對シ保證人ニ係リ訴追スルコトヲ得セシメタルモノニシテ即チ主タル債務者ニ於テ全ク辨濟ノ資力ナキ時ニ至リ始テ保證債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス而テ若シ債權者ニ於テ主タル債務者ノ失踪逃亡若クハ全ク無資力ナルノ事實ヲ證明シタルトキハ直ニ保證人ニ係リ請求スルコトヲ得ヘク必スシモ強制執行ノ手續ヲ履行スルコトヲ要セザルハ勿論ナレトモ云云(ト)大審院明治三十六年十二月十九日第一民事部判決(請)

法學志林

第五十五號 每月一四十五日發行
 四月十五日 定價一冊拾貳錢
 發行 十冊前金郵稅共錢
 壹圓貳拾錢

●校友生徒校外生ニ限リ特價一冊拾錢郵稅壹圓十冊前金郵稅共壹圓

◎志林

- 最近判例批評 法學博士 梅謙次郎
- 會社ノ自己ノ株式ノ取得ヲ論ス 法學博士 板倉太
- 先取特權ニ準用スヘキ抵當者ノ規定(承前) 法學博士 寺倉
- 戰爭ニ就テ 法學博士 清
- 帝國議會召集ノ勅諭ト議院法第一條及 法學博士 梅謙次郎
- 衆議院議員選舉法第七十三條ノ關係 法學博士 山雅正
- 陸軍海軍ノ區別ト夫婚姻 法學博士 秋山
- 民法上ノ共有ト船舶共有トノ關係 法學博士 寺尾
- 日露戰爭開始ノ時期 法學博士 亨治
- 大審院新判決例三十一件 法學博士 澄

◎解疑

○大審院新判決例三十一件

◎判例

○擬律擬判試驗答案 二件

◎答案

○記入國債ノ質入ニ關スル法律 ○三山島砲擊問題 ○法律ノ公布 ○腐敗セル露國 ○非常特別稅法 ○辯護士ノストライキ ○秋山代議士ノ處決 ○檢事總長ノ辭表 ○高等司法官ノ

◎雜報

○特別稅法 ○法政大學校友會東京支部春季總會 ○法政大學校友會評議員會

◎記事

○法政大學校友會春季大會 ○校友及懇親會 ○講師會 ○講師ノ招聘 ○幹事

發行所

法政大學

○法學志林(自第四十一號)總目錄

特別法講義錄

第十三號 (四月三日發行)

每月一回發行
謝金十五錢

現行租稅法論

法學士若槻禮次郎

競賣法

法學士吾孫子勝

著作權法

法學博士水野鍊太郎

公證人規則

法學士山脇貞夫

執達吏規則

法學士岡八

○戶籍法(完結)法學士島田鐵吉○人事訴訟手續法

(完結)法學士松岡義正○特許法(完結)法學士杉本

貞治郎

●一號ヨリ缺本ナシ

四月

法政大學

(明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可)
每月十回 一日三五八日十一日十五十八日廿一日廿五日廿八日發行

明治三十七年四月八日印刷
明治三十七年四月十一日發行

(定價金貳拾錢)

編輯者 東京市牛込區牛込北町十番地 萩原敬之

印刷者 東京市牛込區矢來町三番地 小宮山信好

印刷所 東京市芝區西ノ久保明虎町十一番地 金子活版所

發行所 東京市總町區富士見町六丁目十六番地

司法省 法政大學

(電話番町百七十四番)